

九頭竜川水系日野川ブロック 河川整備計画の点検について (県管理区間)

平成26年2月3日

福 井 県

点検の内容

九頭竜川水系 日野川ブロック 河川整備計画(H19.2策定 H21.8変更)

1. 河川整備の進捗状況の点検

- 1.1 河川改修の進捗状況
- 1.2 多自然川づくりの取組み状況
- 1.3 総合治水対策の取組み状況
- 1.4 河川維持管理の実施状況
- 1.5 その他

2. 治水計画の確認

- 2.1 治水計画の計画諸元の確認
 - (1) 将来計画の計画規模
 - (2) 計画降雨量
- 2.2 新たな河川工事の位置付けの検討

- 「河川整備の進捗状況の点検結果」を、具体的取組みの改善に繋げていく。
- 「治水計画の確認結果」もふまえ、計画の見直しを検討する必要があるか確認する。

1. 河川整備の進捗状況の点検

点 検 項 目		点 検 方 法
1.1 河川改修の 進捗状況	(1) 着手済み河川の進捗状況	工事の進捗状況、段階施工の方法、事業スケジュールなどの確認
	(2) 未着手河川の見通し	事業スケジュールなどの確認
	(3) 吉野瀬川ダムの進捗状況	事業の進捗状況、自然環境への配慮の取組み、事業スケジュールなどの確認
1.2 多自然川づくり の取組み状況	(1) 河川改修における自然 環境・景観機能の確保	改修前後の河川状況の比較
	(2) 魚道の設置・改築	取組み状況、モニタリング結果の確認
	(3) 狐川の環境整備	工事の進捗状況、モニタリング結果の確認
1.3 総合治水対策 の取組み状況	(1) 流域対策	取組み状況、今後の進め方の確認
	(2) 被害軽減対策	
1.4 河川維持管理 の実施状況	河川施設の巡視、堆積土砂の撤去、樹木群の伐採	取組み状況の確認
1.5 その他	濁水対策、水質の監視、住民参加による河川美化活動 etc	取組み状況の確認

- 河川整備計画に記載した主な河川整備に係る取組みをピックアップした。
- 今回、「1 河川整備の進捗状況の点検」については、1.1~1.3に説明を絞る。

1.1 河川改修の進捗状況

(1) 着手済み河川の進捗状況(江端川)

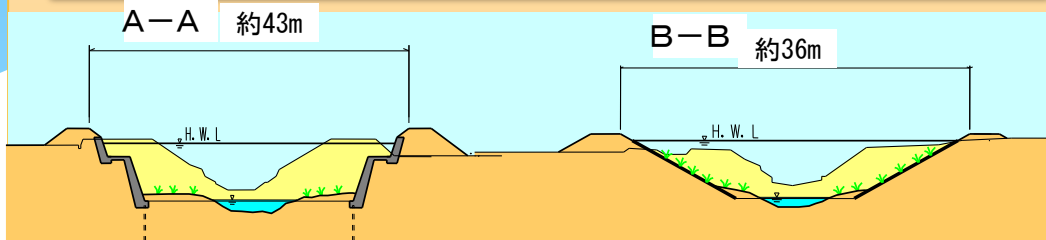
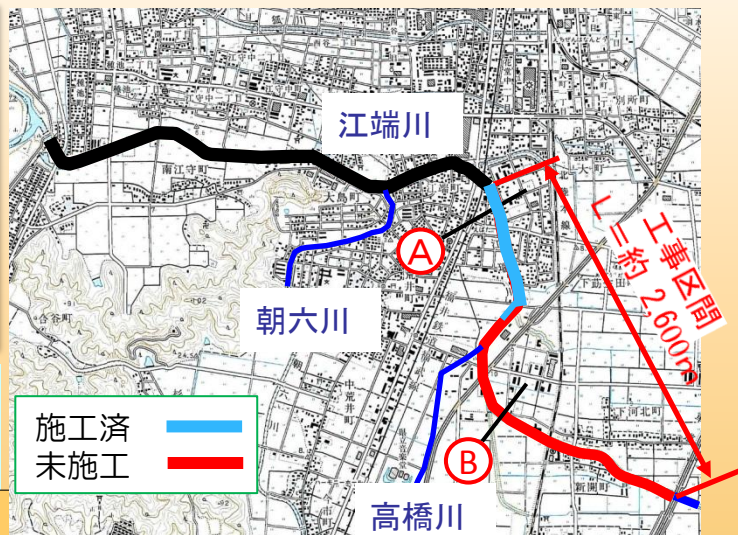
個票No 02

整備進捗率 (暫定)
34% (39%)

☆計画規模：1/50 ☆計画雨量：179mm/日
☆河川工事の内容：河道拡幅、河床掘削、護岸工

☆河川工事の進捗状況

- 整備進捗率：887(m)/2,600(m) × 100 = 34 (%)
- 段階施工の方法
 - ・下荒井橋より上流側JR橋までの左岸拡幅を先行し、治水安全度を1/10を確保する。
 - ・その後、下流より右岸拡幅を進めていく。
- 段階施工を加味した整備進捗率
：1,017(m)/2,600(m) × 100 = 39 (%)



【評価】

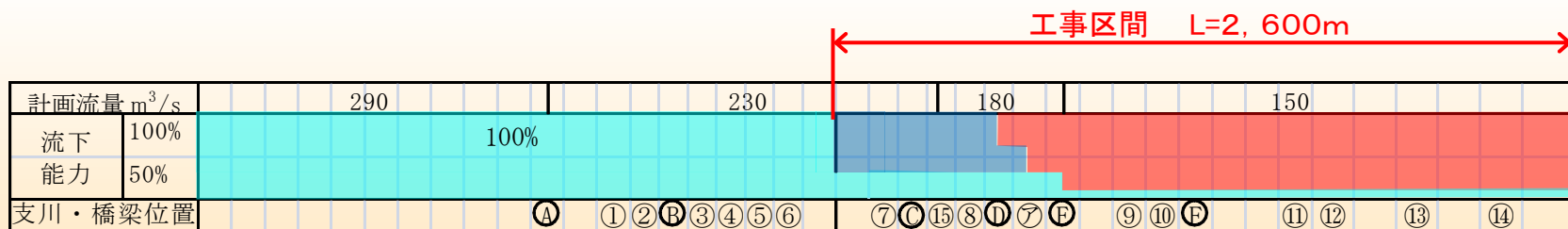
- ・市街地区間の改修が完了し、工事進捗は順調である。
- ・未施工の郊外部では、今後、早期に暫定1/10の安全度を確保できるよう片岸先行による段階施工を進め、工事進捗を図る。

区間	～概ね10年	10	～概ね20年	20年
高橋川合流点迄	[Progress bar from H19 to H24]			
JR北陸本線迄	[Progress bar from H24 to H35]			
北陸自動車道迄	[Progress bar from H35 to H39]			
	H19 年度	H24 年度	H29 年度	H35 年度

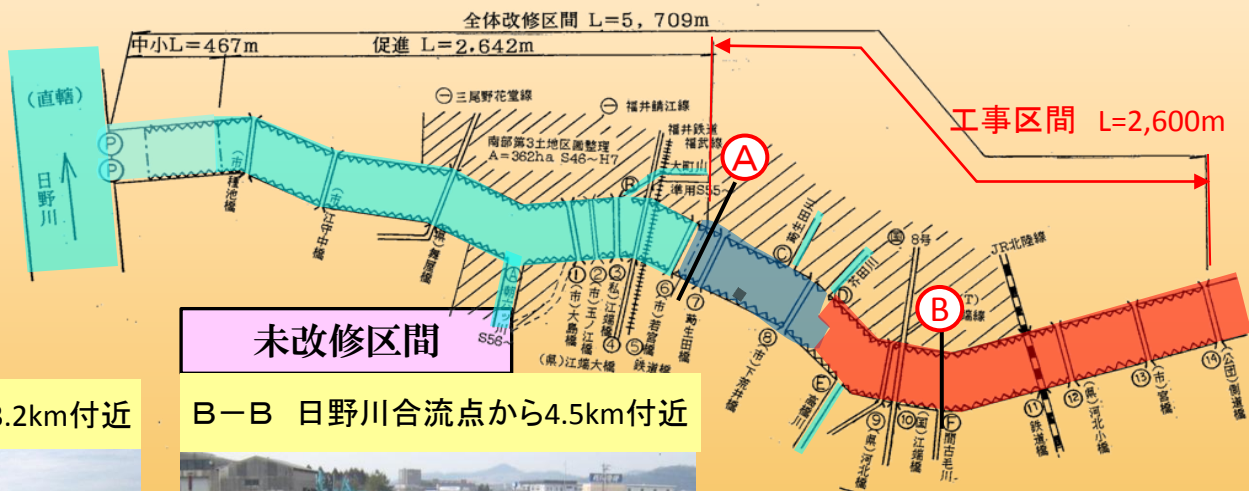
1.1 河川改修の進捗状況

(1) 着手済み河川の進捗状況(江端川)

個票No 02



凡例
 施工箇所
 未施工箇所



改修済み区間

A-A 日野川合流点から3.2km付近



未改修区間

B-B 日野川合流点から4.5km付近



1.1 河川改修の進捗状況

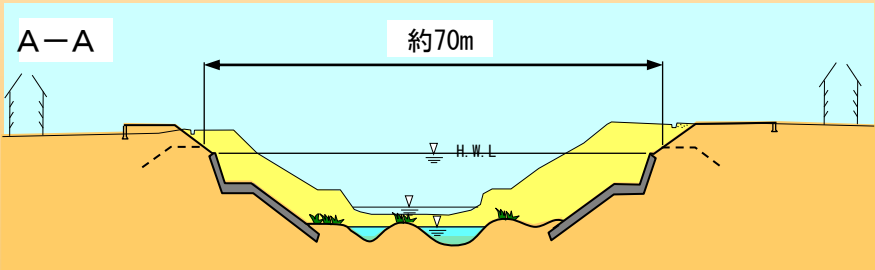
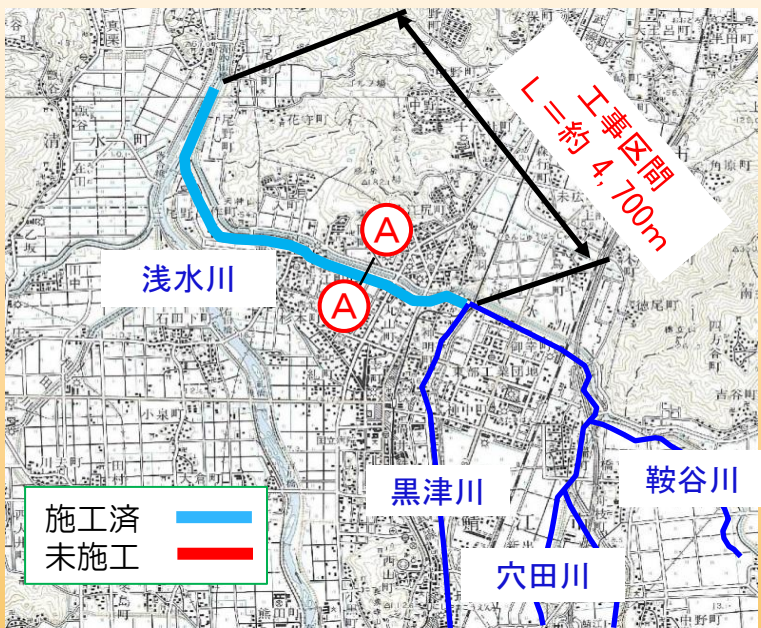
(1) 着手済み河川の進捗状況(浅水川)

個票No 03

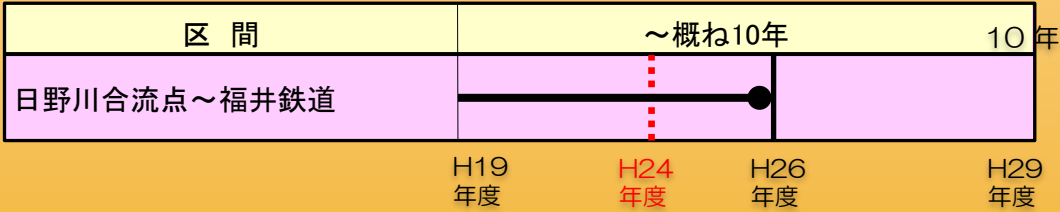
整備進捗率
100%

☆計画規模：1/30 ☆計画雨量：168mm/日
☆河川工事の内容：河道拡幅、河床掘削、低水護岸工

☆河川工事の進捗状況
○整備進捗率：4,700(m)/4,700(m)×100=100(%)
○進捗状況
・全工事区間で、河床掘削と河道拡幅が完了し河道断面は治水安全度1/30を確保している。
・今後、低水護岸工を実施しH26に完了する予定である。



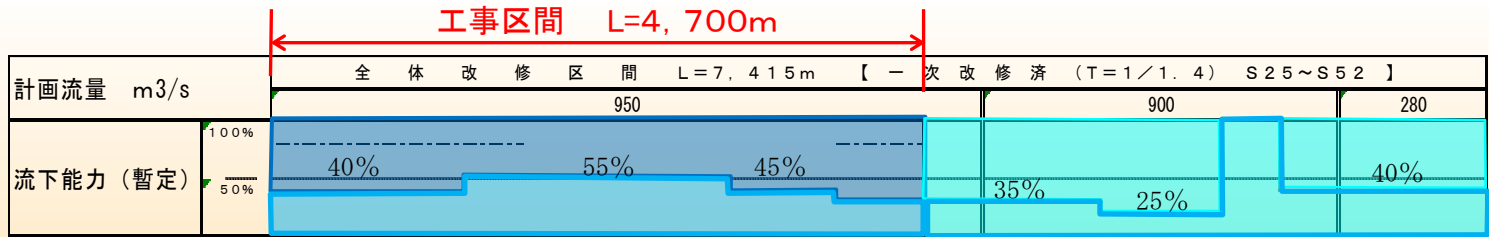
【評価】
・全工事区間で1/30の河道断面を確保し、工事進捗は順調であり、H26に工事完了の予定である。



1.1 河川改修の進捗状況

(1) 着手済み河川の進捗状況(浅水川)

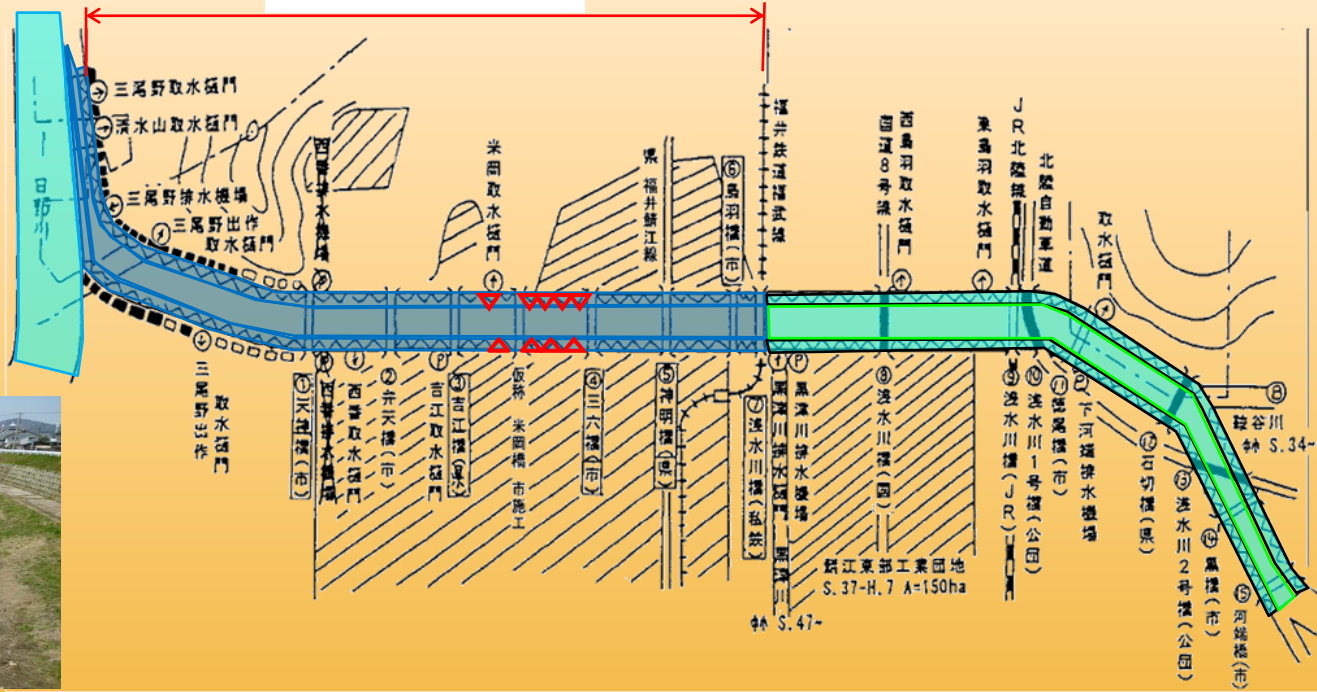
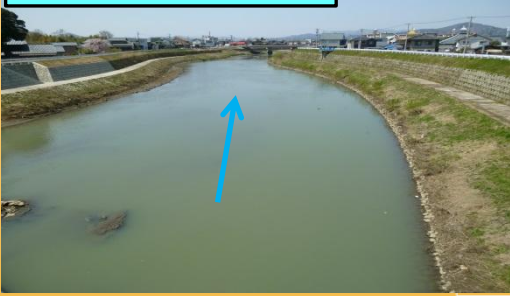
個票No 03



工事区間 L=4,700m

凡例
■ 施工箇所
■ 未施工箇所

改修済み区間



1.1 河川改修の進捗状況

(1) 着手済み河川の進捗状況(鞍谷川)

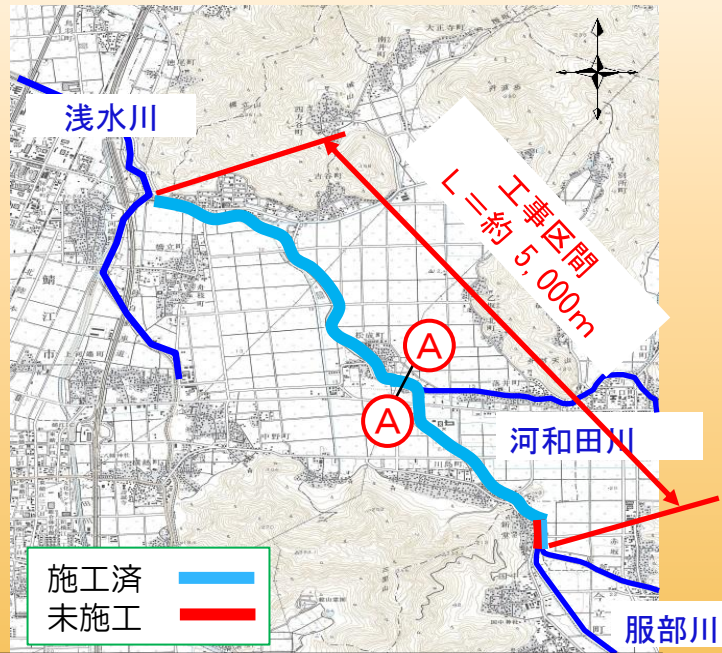
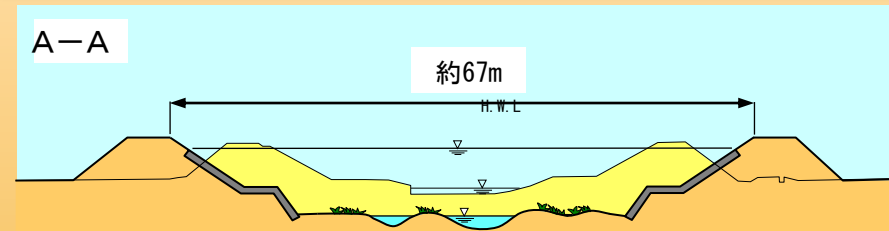
個票No 04

整備進捗率
94%

☆計画規模：1/30 ☆計画雨量：168mm/日
☆河川工事の内容：築堤工、河道拡幅、河床掘削、護岸工

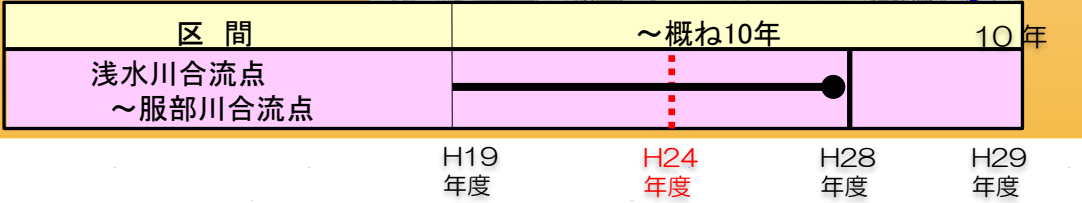
☆河川工事の進捗状況
○整備進捗率：4,684(m)/5,000(m)×100=94(%)
○進捗状況

- ・これまで、築堤や河道拡幅は服部川合流点まで完了しているとともに、河床掘削も上流側の一部を残し完了している。
- ・今後、上流側の約300mの河床掘削と低水護岸工を実施し、全工事区間で治水安全度1/30を確保する。



【評価】

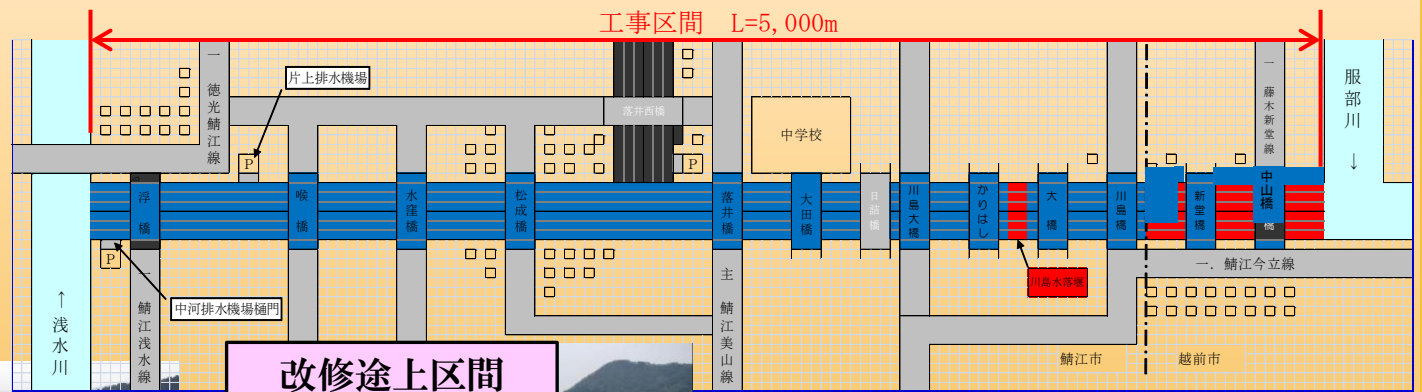
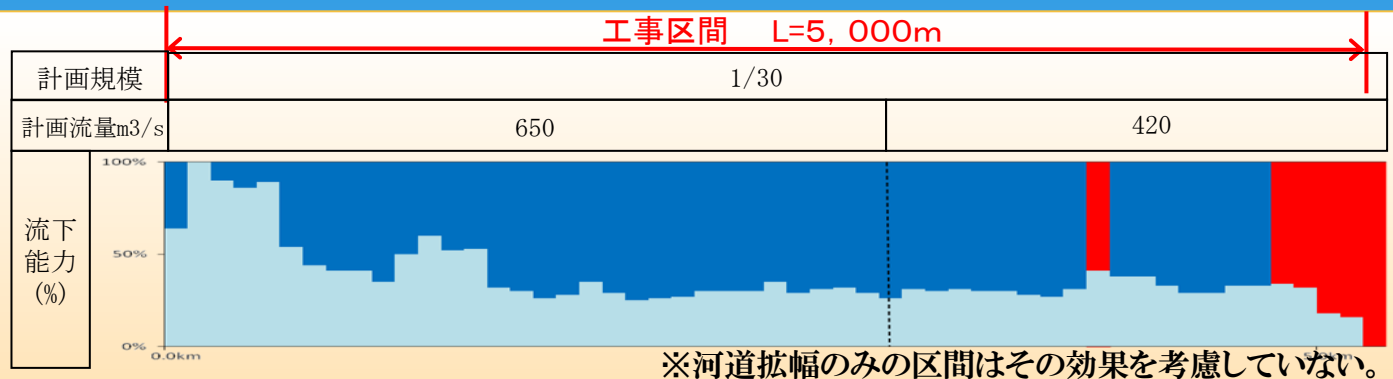
- ・整備進捗率は94%であり、工事進捗は順調である。
- ・上流側で一部低水路が未施工だが、今後、H28までに工事完了できるよう工事進捗を図る。



1.1 河川改修の進捗状況

(1) 着手済み河川の進捗状況(鞍谷川)

個票No 04



改修済み区間

改修途上区間



1.1 河川改修の進捗状況

(1) 着手済み河川の進捗状況(河和田川)

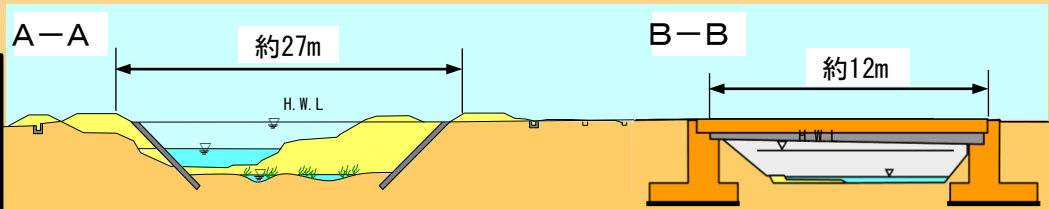
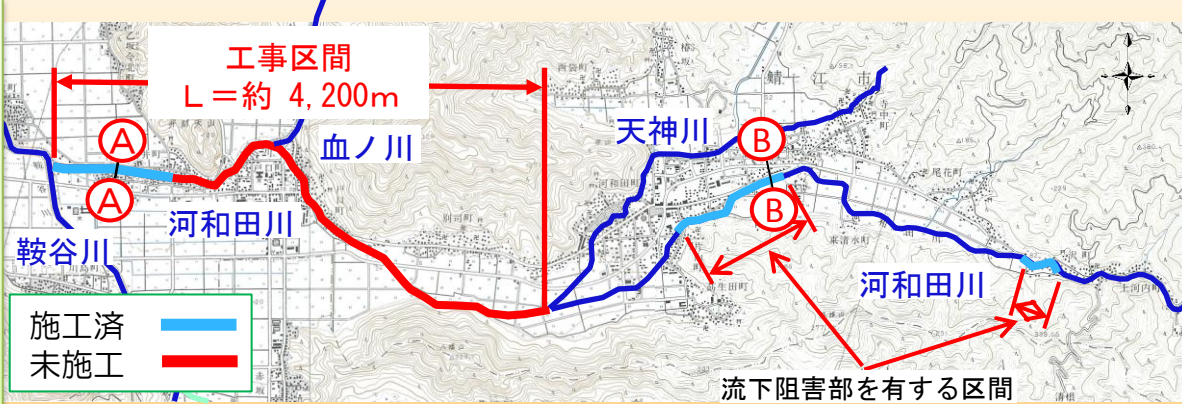
個票No 05

整備進捗率
14%

☆計画規模：1/30 ☆計画雨量：168mm/日
☆河川工事の内容：下流区間…築堤工、河道拡幅、河床掘削、護岸工
上流区間…橋梁嵩上げ、堰改築

☆河川工事の進捗状況

- 整備進捗率：
 $593(m) / 4,200(m) \times 100 = 14(\%)$
- 進捗状況
 - ・下流区間は、鞍谷川の改修に合わせ、合流点より593mの改修は完了した。
 - ・上流区間は、橋梁や堰の流下障害を解消し、1/5の安全度を確保した。



【評価】

- ・下流区間では、整備進捗率が14%であり、計画期間内に改修が完了できるよう、今後、具体的な改修方法について検討し地元調整を進めていく必要がある。
- ・上流区間では、流下障害を解消することで、1/5の治水安全度を確保できており、順調に工事進捗を図ることができた。

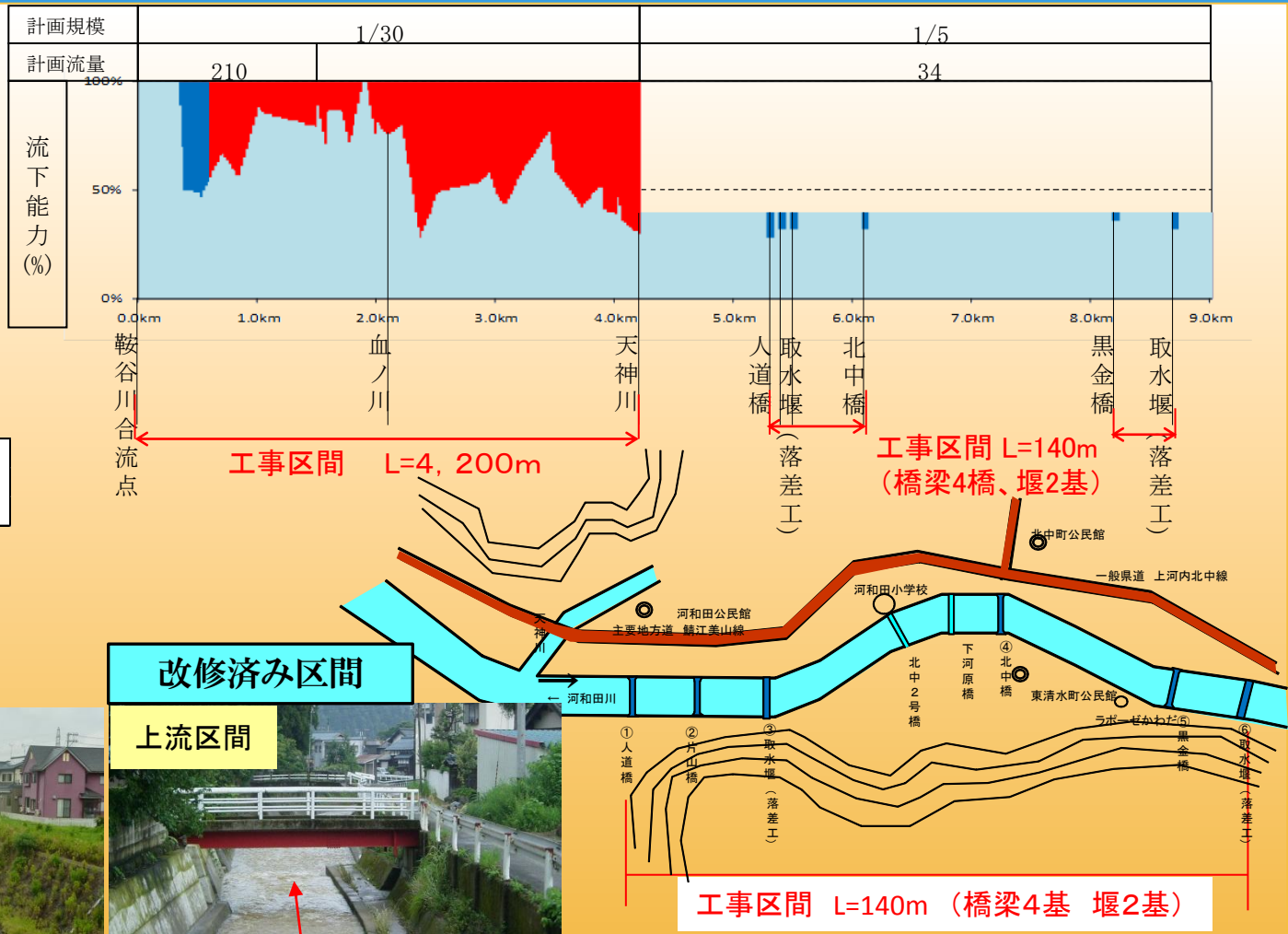
区間	距離標(km)	～概ね10年	10～概ね20年	20～概ね30年	30年
河川改修工事	0.0k～4.2k	●	●	●	●
流下障害解消	4.2k～9.7k	●			

H19年度 H24年度 H29年度 H39年度 H49年度

1.1 河川改修の進捗状況

(1) 着手済み河川の進捗状況(河和田川)

個票No 05



1.1 河川改修の進捗状況

(1) 着手済み河川の進捗状況(天王川)

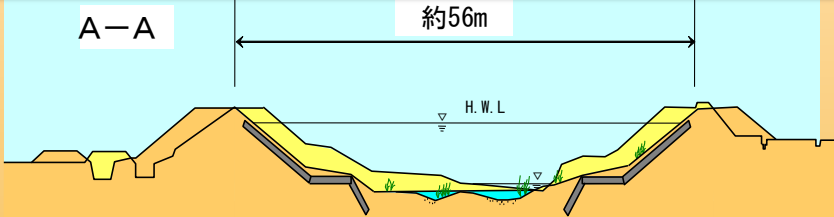
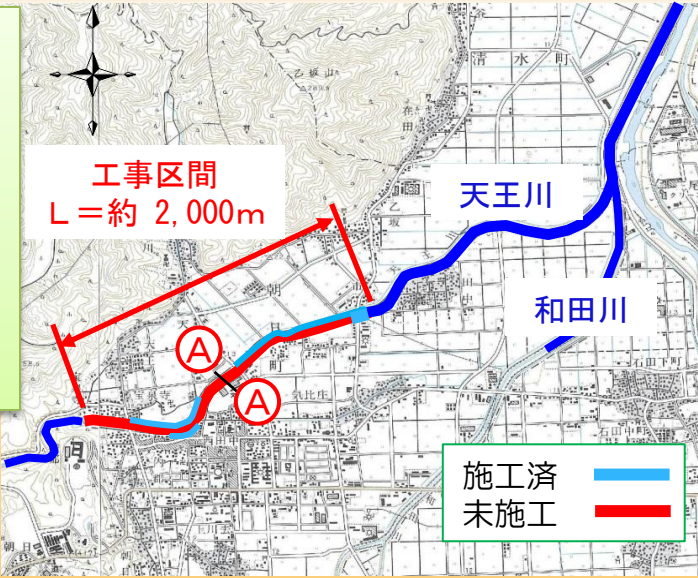
個票No 07

整備進捗率 (暫定)
38% (100%)

☆計画規模：1/20 ☆計画雨量：160mm/日
☆河川工事の内容：築堤工、河道拡幅、河床掘削、護岸工

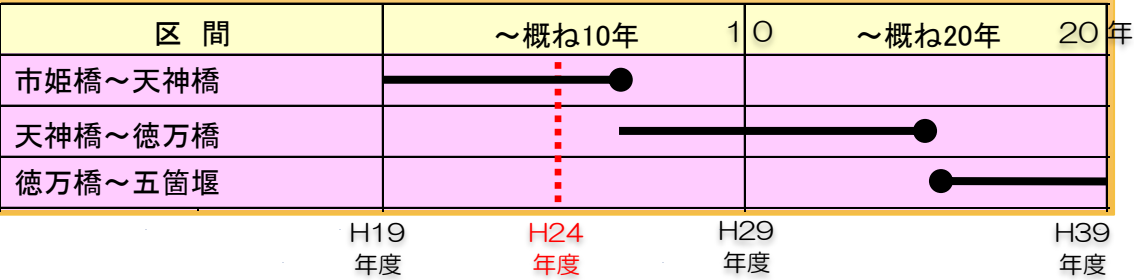
☆河川工事の進捗状況

- 整備進捗率：750(m)/2,000(m) × 100 = 38(%)
- 段階施工の方法
 - ・市姫橋までの改修後、まず、全区間で治水安全度1/5を確保できるように、上流区間の断面狭小部で、左岸引堤、護岸工を実施した。
 - ・現在、再度下流に戻り、市姫橋から上流に向けて、概ね1/20の治水安全度を確保できるように左岸引き堤を先行している。
- 段階施工を加味した整備進捗率
：2,000(m)/2,000(m) × 100 = 100(%)



【評価】

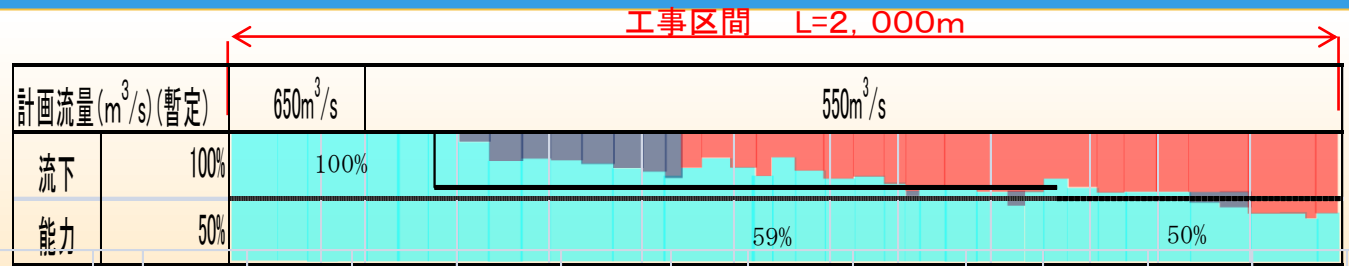
- ・整備進捗率は38%だが、全工事区間で暫定1/5の整備は完了しており、工事進捗は順調である。
- ・今後、下流区間において、左岸引堤による段階施工を進め、工事進捗を図る。



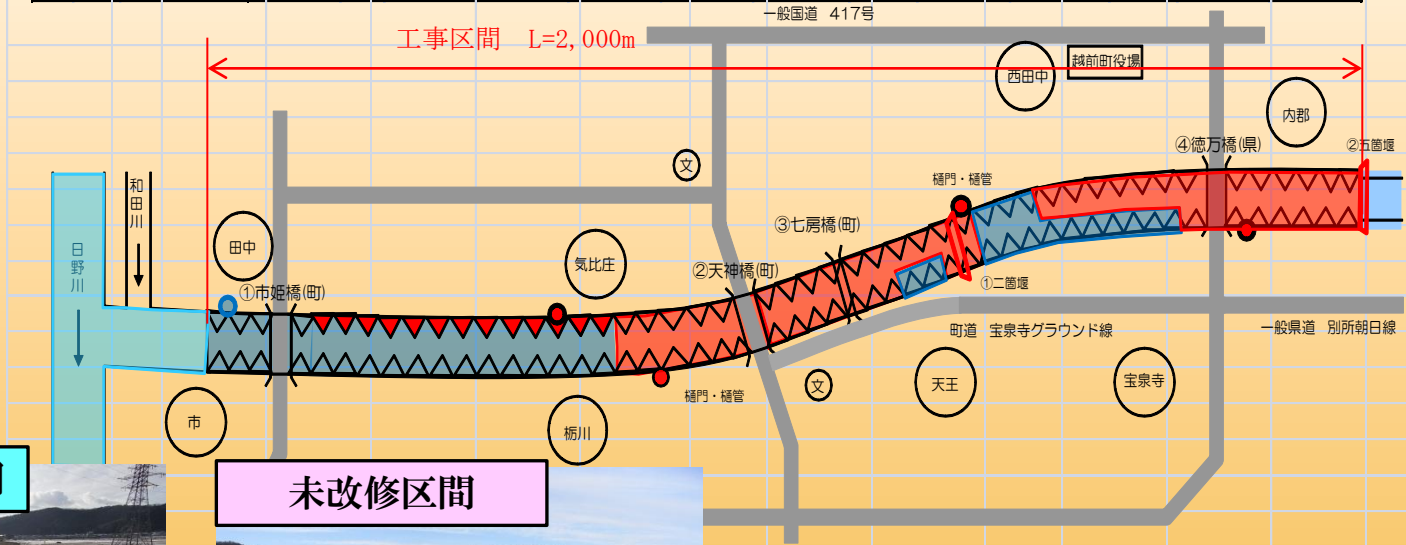
1.1 河川改修の進捗状況

(1) 着手済み河川の進捗状況(天王川)

個票No 07



凡例
■ 施工箇所
■ 未施工箇所



左岸改修済み区間



未改修区間



1.1 河川改修の進捗状況

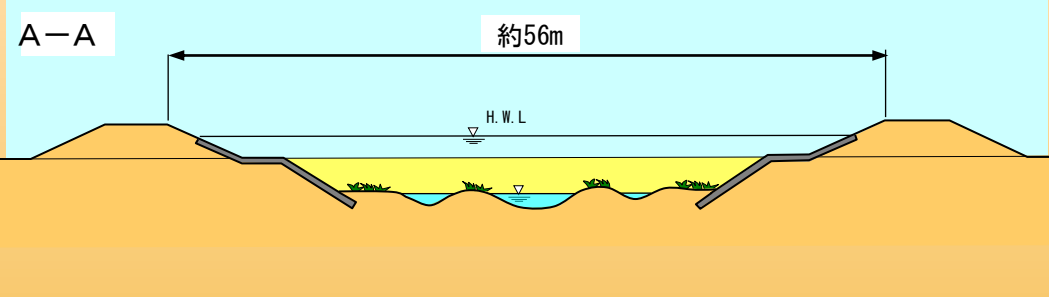
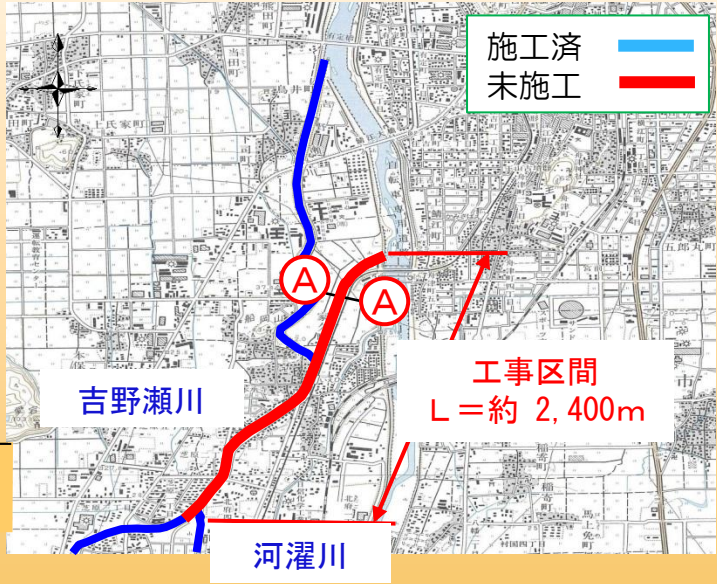
(1) 着手済み河川の進捗状況(吉野瀬川)

個票No 08

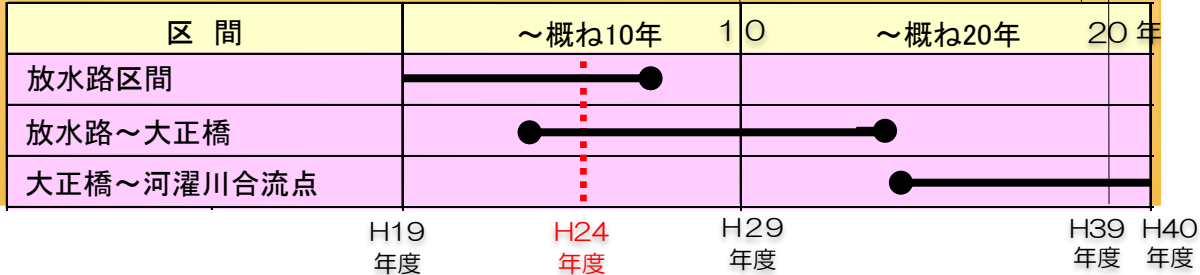
整備進捗率 (事業費換算)
0% (53%)

☆計画規模：1/30 ☆計画雨量：166mm/日
☆河川工事の内容：放水路整備、築堤工、河道掘削、河床掘削、護岸工

☆河川工事の進捗状況
○整備進捗率：0(m)/2,400(m) × 100 = 0(%)
○進捗状況
・放水路区間の廃棄物処理が完了し、現在、放水路を施工中である。



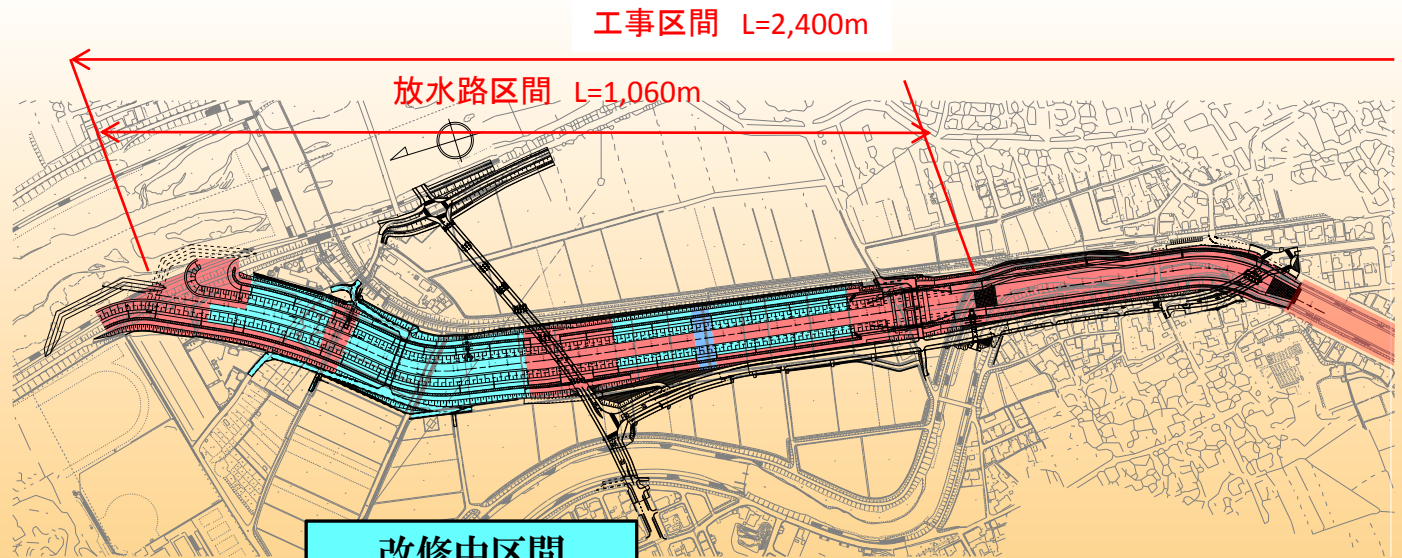
【評価】
・放水路整備を着実に進めており、工事進捗は順調である。
・今後、引き続き放水路整備を重点的に進め、事業進捗を図る。



1.1 河川改修の進捗状況

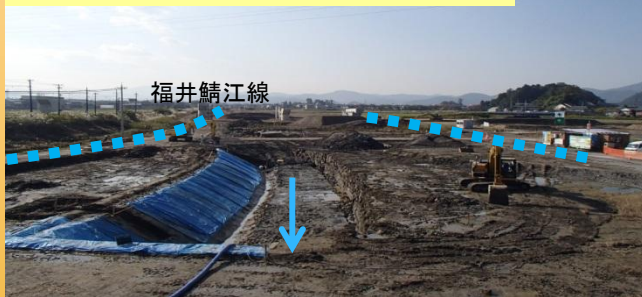
(1) 着手済み河川の進捗状況(吉野瀬川)

個票No 08



改修中区間

市道橋(上流)⇒福井鯖江線



改修中区間

市道橋(下流)⇒日野川合流点



1.1 河川改修の進捗状況

(1) 着手済み河川の進捗状況(鹿蒜川)

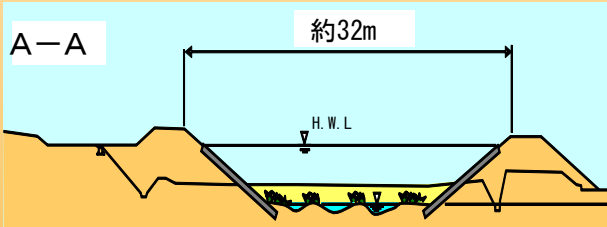
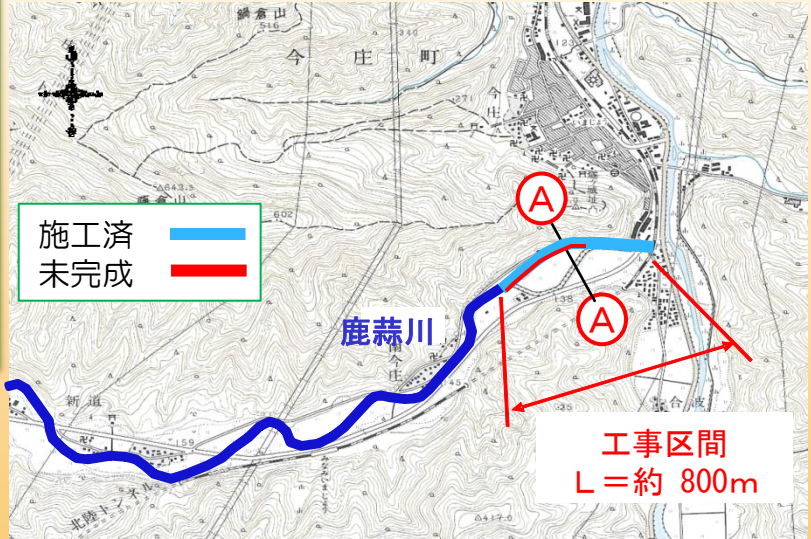
個票No 10

整備進捗率 (暫定)
41 (100%)

☆計画規模：1/30 ☆計画雨量：64mm/hr
☆河川工事の内容：河道拡幅、河床掘削、護岸工、捷水路整備

☆河川工事の進捗状況

- 整備進捗率：330(m)/800(m)×100=41 (%)
- 段階施工の方法
 - ・先行して、上流区間（日野川合流点より330m地点上流）の河道付替えを実施し（捷水路整備）、左岸完成形、右岸暫定形の1/10（下流流下能力見合い）で整備した。
 - ・その後、日野川合流点より順次改修を進め、下流区間330mについて、1/30で改修を完了した。
- 段階施工を加味した整備進捗率
：800 (m)/800 (m)×100=100(%)



【評価】

- ・下流の現川拡幅区間は改修が完了しているとともに、上流の捷水路区間では、暫定1/10の安全度での改修が完了し、必要な整備水準は確保できた。

区間	距離標(km)	~概ね10年	10年
下流工区	0.0k~0.3k	●	●
上流工区	0.3k~0.9k	●	●

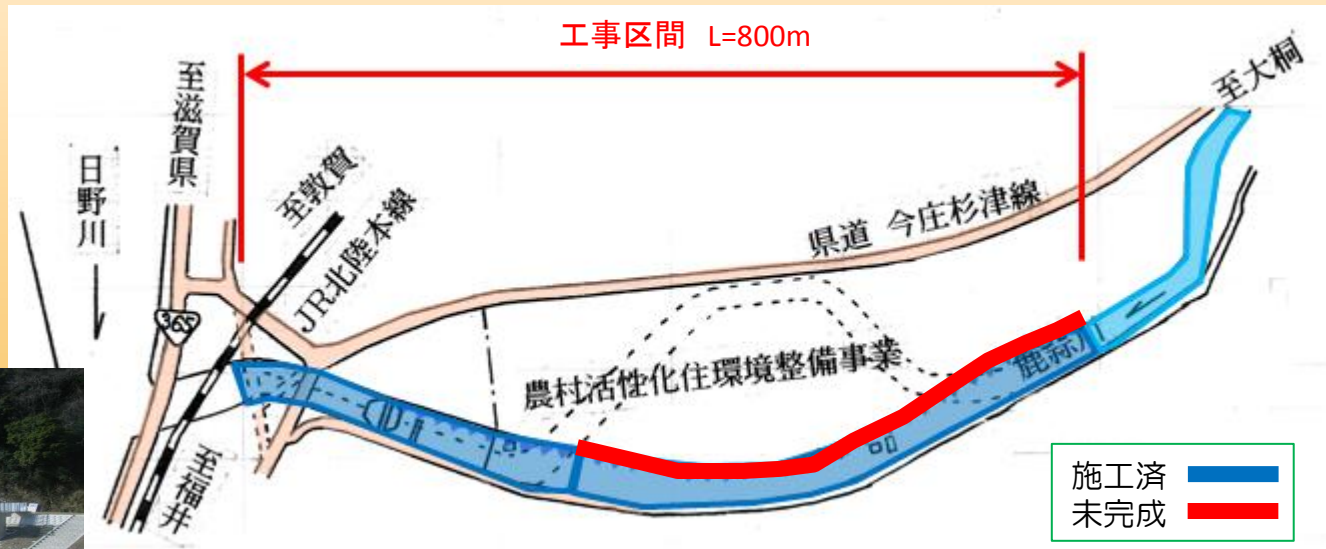
H19年度 H24年度 H29年度

1.1 河川改修の進捗状況

(1) 着手済み河川の進捗状況(鹿蒜川)

個票No 10

		工事区間 L=800m	
計画流量 m^3/s		350	
流下能力	100%		
	50%	61%	



改修済み区間



1.1 河川改修の進捗状況

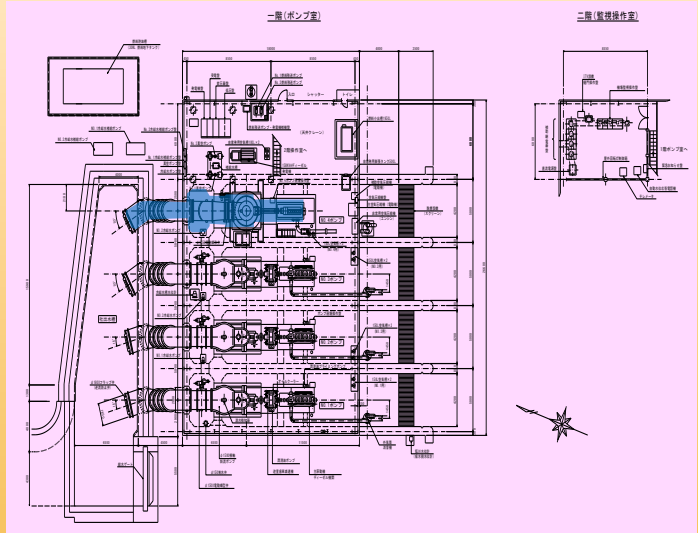
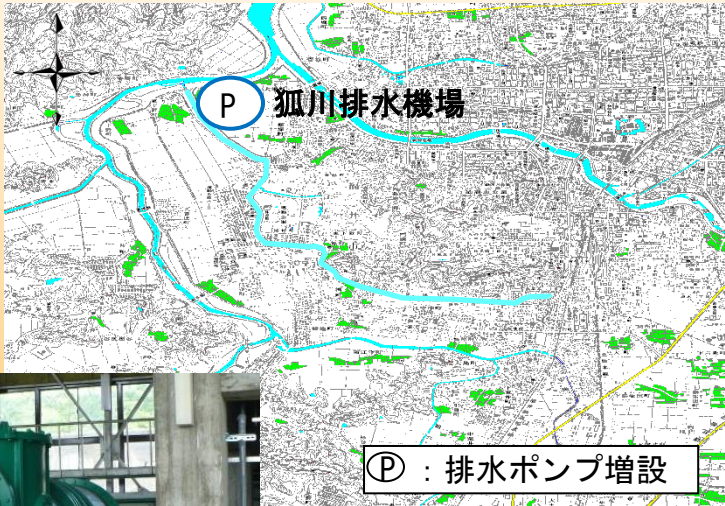
(1) 着手済み河川の進捗状況(狐川ポンプ増設)

個票No 12

整備進捗率
100%

☆計画規模：1/5 ☆ポンプ容量：20m³/s
☆河川工事の内容：排水ポンプの増設

☆河川工事の進捗状況
○整備進捗率：1(箇所)/1(箇所)×100=100(%)
(H20完成)



【評価】
・排水ポンプの増設は、H20年に完成し、順調に事業進捗を図ることができた。

1.1 河川改修の進捗状況

(2) 未着手河川の見通し(日野川)

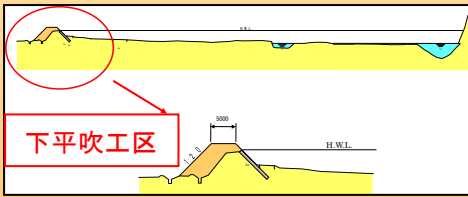
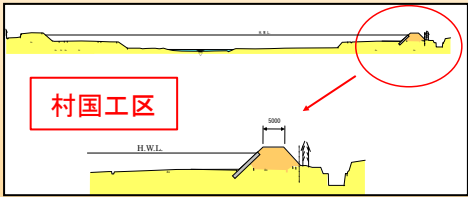
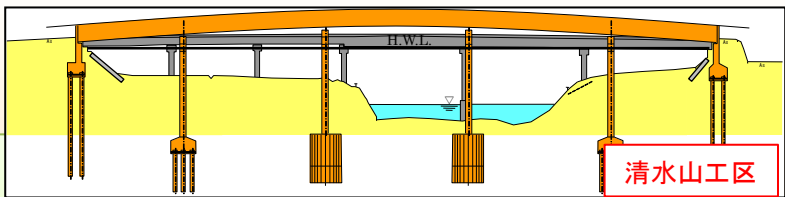
個票No 01

整備進捗率
0%

- ☆計画規模：1/50
- ☆計画雨量：289mm/2日
- ☆河川工事の内容：
 - 清水山工区：護岸工、橋梁架替
 - 村国工区：築堤工、護岸工
 - 下平吹工区：築堤工、護岸工

【評価】

- ・国管理区間の最上流工区である朝宮地区の着工に合わせて、改修に着手する。
- ・先行改修による下流への流量負荷を分析した上で、国管理区間の改修状況や見通しをふまえ、必要に応じて先行着手を図る。



区間	距離標(km)	～概ね10年	10	～概ね20年	20	～概ね30年	30年
清水山工区	14.1k付近			●		●	
村国工区	27.0k付近					●	
下平吹工区	31.2k付近					●	
		H19年度	H24年度	H29年度	H39年度	H49年度	

1.1 河川改修の進捗状況

(2) 未着手河川の見通し(服部川)

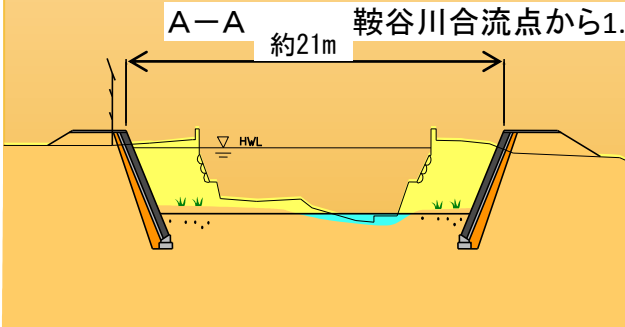
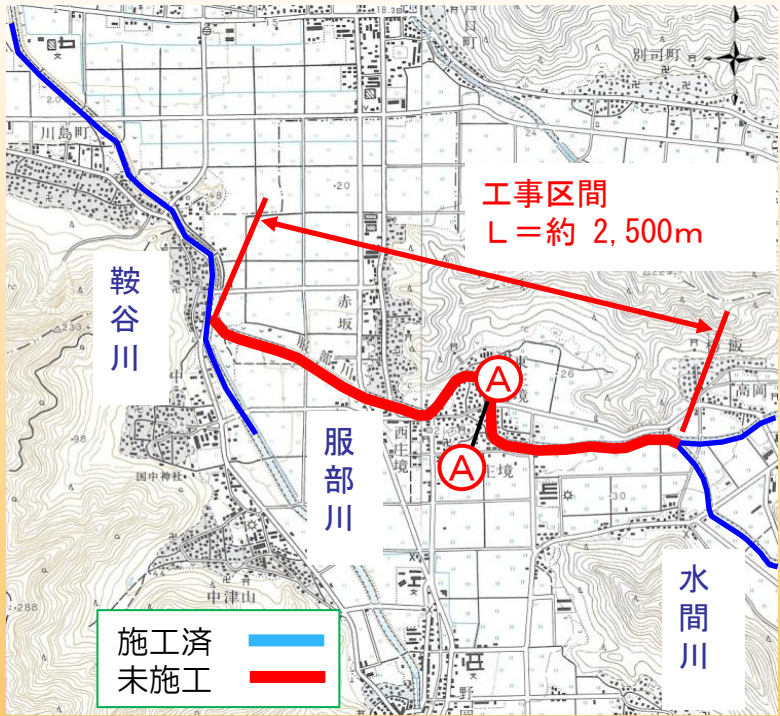
個票No 06

整備進捗率
0%

- ☆計画規模：1/10
- ☆計画雨量：51mm/hr
- ☆河川工事の内容：河道拡幅、河床掘削、護岸工

【評価】

- ・合流河川との整合性（流量負荷）を考慮し、鞍谷川の改修の完了後に、服部川の改修に着手する。
- ・また、円滑に事業着手できるように具体的な改修方法について検討し地元調整を進める。



区間	～概ね10年	10	～概ね20年	20	～概ね30年	30	年
鞍谷川合流点～ 水間川合流点	⋮		●				
	H19 年度	H24 年度	H29 年度	H39 年度	H49 年度		

1.1 河川改修の進捗状況

(3) 吉野瀬川ダムの進捗状況

個票No 09

整備進捗率	
事業費	約55%
ダム	0%
付替道路	約65%

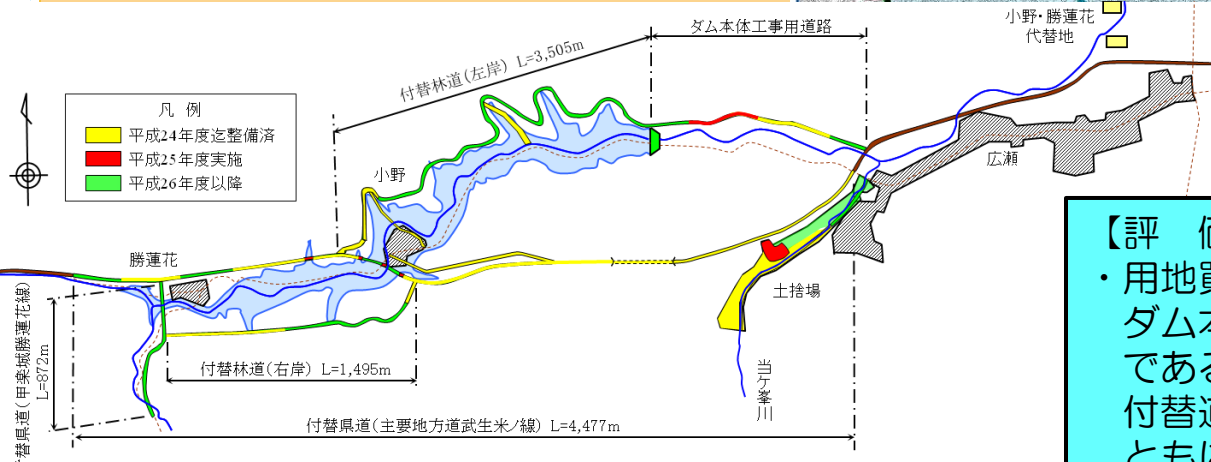
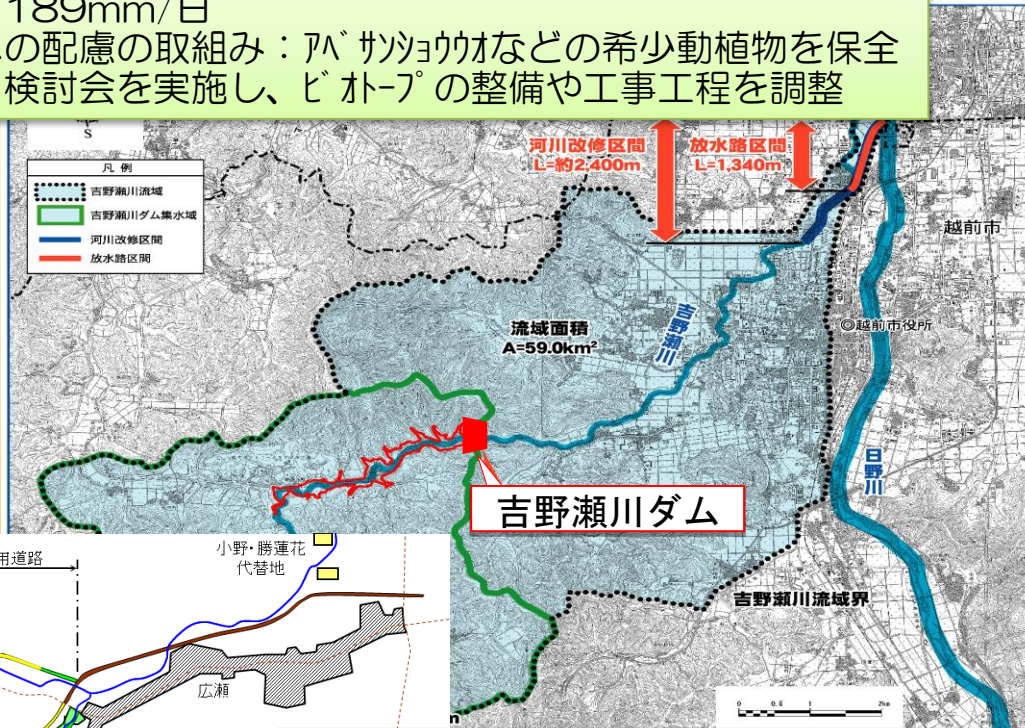
☆計画規模：1/70（暫定運用1/30）
 ☆計画雨量：189mm/日
 ☆自然環境への配慮の取組み：アサツユウカなどの希少動植物を保全するため、検討会を実施し、ビオトープの整備や工事工程を調整



県道武生米ノ線 整備状況



ダム完成イメージ



【評価】
 ・用地買収が難航している箇所があり、ダム本体工事に着工できていない状況であるが、今後も環境に配慮しながら付替道路などの工事を実施していくとともに、用地買収を進め事業進捗を図る。

1.2 多自然川づくりの取組み状況

(1) 河川改修における自然環境・景観機能の確保(浅水川)

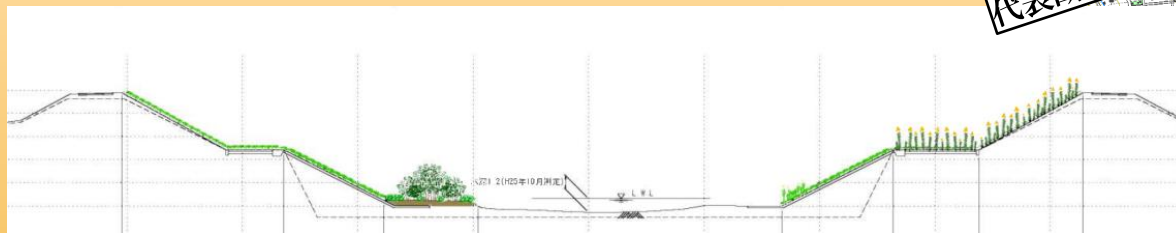
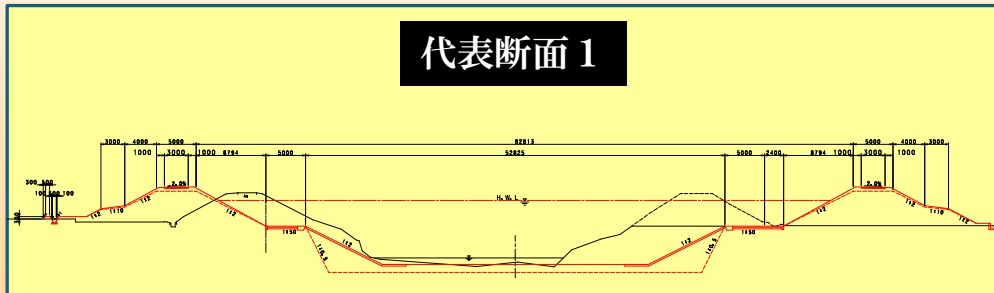
完成後



☆河川工事における多自然川づくりの取組み

- ・護岸に覆土を施すなどして、従来の良好な植生の早期回復を図る。
- ・市街地区間は、河畔樹木を整備するなどして景観形成を図る。

代表断面 1



☆モニタリング結果(代表断面 1)

- ・河岸は、クズ、かぢぐら、ツルヨシ、セイヨウアサダ などがみられ、全面的に植生で覆われている
- ・水際は、ツルヨシなどで覆われており、またヤナギ類で河畔林が形成されつつある

1.2 多自然川づくりの取組み状況

(1) 河川改修における自然環境・景観機能の確保(浅水川)

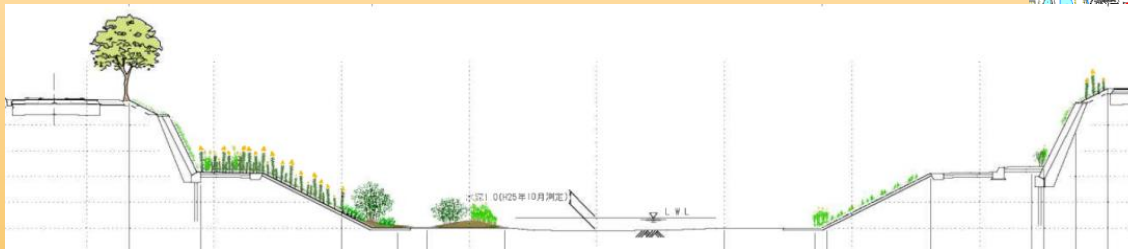
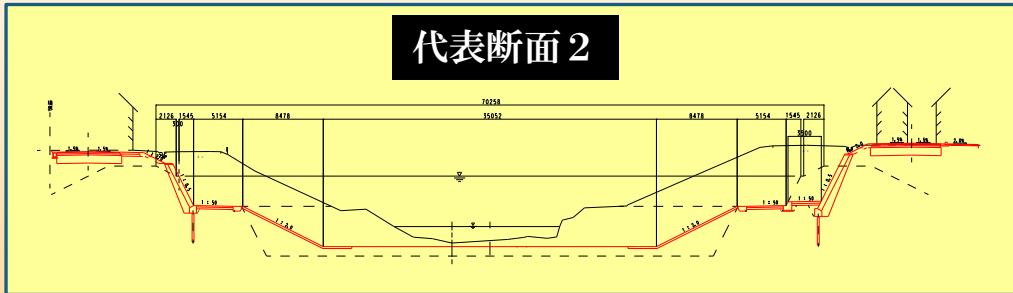
☆河川工事における多自然川づくりの取組み

- ・護岸に覆土を施すなどして、従来の良好な植生の早期回復を図る。
- ・市街地区間は、河畔樹木を整備するなどして景観形成を図る。

完成後



代表断面 2



☆モニタリング結果(代表断面 2)

- ・河岸は、クズ、ヌカキビ、セイヨウアサガリなどがみられ、概ね植生で覆われているが、高水護岸部は法勾配が急で覆土がないため、植生の回復に時間を要している。
- ・水際部は、ミゾソバなどで覆われており、またヤナギ類で河畔林が形成されつつある。
- ・市街地区間では、一部で法肩部に河畔樹木を整備している。

1.2 多自然川づくりの取組み状況

個票No 13

(1) 河川改修における自然環境・景観機能の確保(浅水川)

水際の河畔林の形成状況(田園区間)



法肩部の河畔樹木の整備状況(市街地区間)



【評価】

- ・魚類：改修前と同等の種数を確認でき、また、緩やかな流況と水際植生を好むメダカも確認できたことから、生息状況は回復してきていると考える。
- ・水質：底生生物による判定では、貧腐水性から中腐水性となったが、汚濁階級の構成比は近似しており、水質環境は回復してきていると考える。
- ・植生：河岸や水際で改修前の植生が回復し、全般的に植物群落に覆われているとともに、水際で河畔林も一部形成されており、改修河道は一定の自然環境・景観機能を確保できていると考える。法肩部の河畔樹木が一部で整備され、良好な景観を形成している。
- ・一方、みお筋、瀬、淵、水際環境の形成が十分ではなく、全体的に平瀬が多いが、河床幅は十分あり、また一定の無次元掃流力があるため、川が自らの力で地形・環境を再生していくことが期待できる。
- ・セリソバの刈りにより在来種の生息範囲が侵されている点、高水護岸部で植生回復に時間を要している点をふまえ、地域住民と協働で河川の維持管理を進めていく。

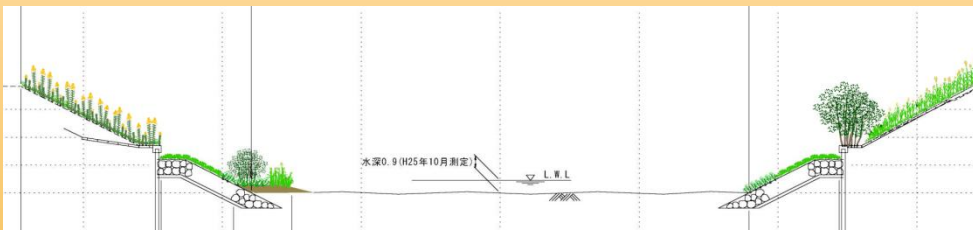
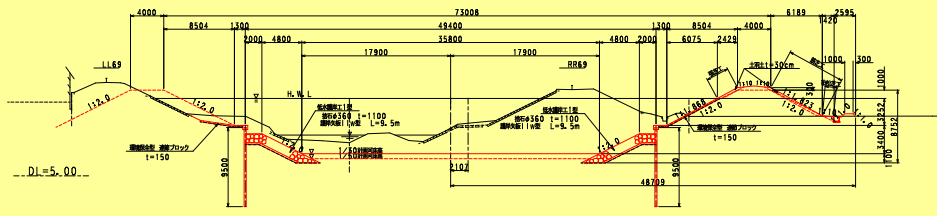
1.2 多自然川づくりの取組み状況

(1) 河川改修における自然環境・景観機能の確保(鞍谷川)

☆河川工事における多自然川づくりの取組み

- ・護岸に覆土を施すなどして、従来の良好な植生の早期回復を図る。
- ・動植物の生息・生育環境を保全するため、瀬・淵を形成する。

代表断面 1



☆モニタリング結果(代表断面 1)

- ・河岸は、クズ、オギ、ヨシ、セイヨウアサダ 等がみられ、全面的に植生で覆われている
- ・水際は、カナムグラ、ミゾソバ、マコモなどで覆われており、またヤナギ類で河畔林が形成されつつある

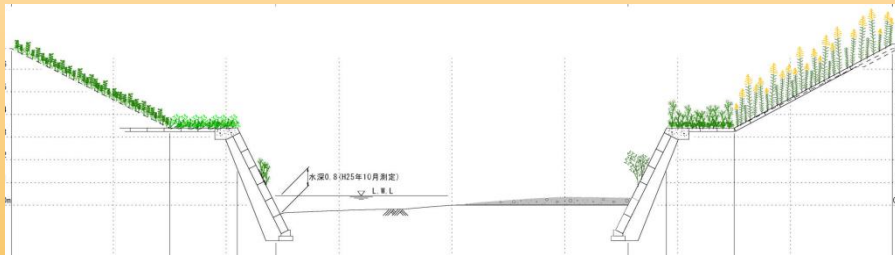
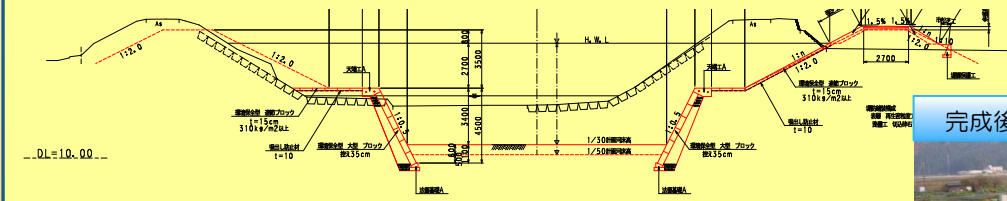
1.2 多自然川づくりの取組み状況

(1) 河川改修における自然環境・景観機能の確保(鞍谷川)

☆河川工事における多自然川づくりの取組み

- ・護岸に覆土を施すなどして、従来の良好な植生の早期回復を図る。
- ・動植物の生息・生育環境を保全するため、瀬・淵を形成する。

代表断面 2



☆モニタリング結果(代表断面 2)

- ・河岸の高水護岸部は、クズ、カラムシ、かたぐら、ミソソバ、ヨモギ、セイヨウアザミなどがみられ、概ね植生で覆われているが、低水護岸部は、一部ヨモギなどがみられる程度で露出面が大きい。
- ・水際部は、ほとんど植生がみられない。

1.2 多自然川づくりの取組み状況

個票No 13

(1) 河川改修における自然環境・景観機能の確保(鞍谷川)

下流区間の水際の状況



上流区間の砂礫河原の形成状況



【評価】

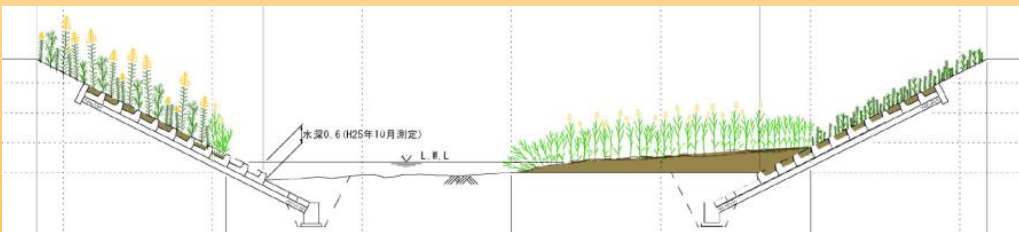
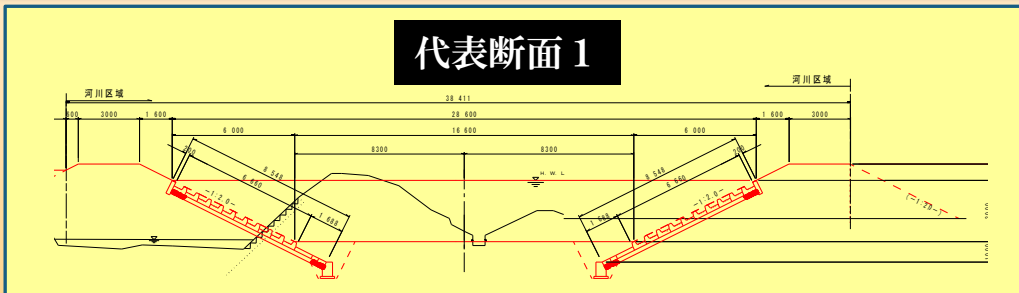
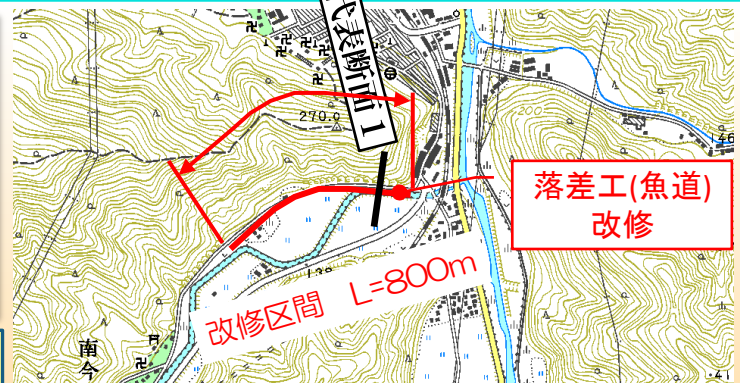
- ・魚類：改修前と同等の種数を確認しており、生息状況は回復してきていると考える。
- ・水質：底生生物による判定では、強腐水性から中腐水性に改善されたように見えるが、今回確認できた生物種が少なく、水質環境の回復は不明確である。
- ・植生：下流区間は、河岸や水際で改修前の植生が回復し全般的に植物群落に覆われているとともに、水際で河畔林も一部形成されており、改修河道は一定の自然環境・景観機能を確保できていると考える。しかし、上流区間は、低水護岸部の植生が乏しく露出面が大きいことから、改修した河道は一定の自然環境・景観機能を確保できているとは言い難い。
- ・下流側では、みお筋、瀬、淵、水際環境の形成が十分ではなく、全体的に平瀬が多いが、河床幅は十分あり、また一定の無次元掃流力があることから、川が自らの力で地形・環境を再生していくことが期待できる。一方、上流側は砂礫河原がみられ、河道地形の多様性が形成されつつある。
- ・セイウナダナリにより在来種の生息範囲が侵されている点、上流区間の低水護岸部で植生が回復していない点をふまえ、地域住民と協働で河川の維持管理を進めていく。

1.2 多自然川づくりの取組み状況

(1) 河川改修における自然環境・景観機能の確保(鹿蒜川)

☆河川工事における多自然川づくりの取組み

- ・ 平常時水深を確保し、魚などの生育・生息環境を維持するため、低々水路を設ける。
- ・ 護岸に覆土を施すなどして、従来の良好な植生の早期回復を図る。
- ・ 落差工は、魚類や底生生物の往来ができるよう全面緩傾斜型を採用する。



☆モニタリング結果(代表断面 1)

- ・ 河岸は、ススキ、ヨモギ、セイヨウアサガリなどが見られ、全面的に植生で覆われている。
- ・ 水際は、ツルヨシに全面的に覆われているが、水衝部で覆土が流出し植生が乏しい。

1.2 多自然川づくりの取組み状況

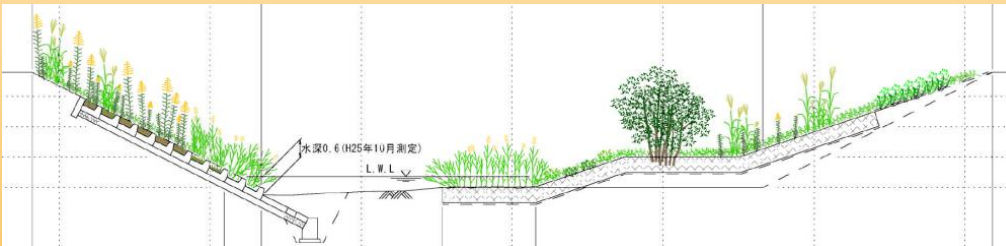
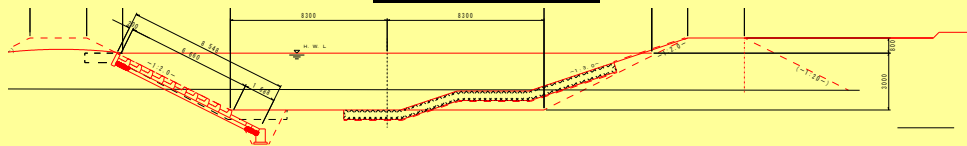
(1) 河川改修における自然環境・景観機能の確保(鹿蒜川)

☆河川工事における多自然川づくりの取組み

- ・ 平常時水深を確保し、魚などの生育・生息環境を維持するため、低々水路を設ける。
- ・ 護岸に覆土を施すなどして、従来の良好な植生の早期回復を図る。
- ・ 落差工は、魚類や底生生物の往来ができるよう全面緩傾斜型を採用する。



代表断面 2



☆モニタリング結果(代表断面 2)

- ・ 河岸は、ススキ、クズ、ヨモギ、セイヨウアサガリなどが見られる他、ヤナギ類やネムノキ、アサガリなどで河畔林が形成されつつあり、ヤシャダケ(県域準絶滅危惧種)も見られる。
- ・ 水際は、ツルヨシに全面的に覆われているが、水衝部で覆土が流出し植生が乏しい
- ・ 改修前は生息していたと言われているミクリ(県域準絶滅危惧種)は、確認できなかった

1.2 多自然川づくりの取組み状況

(1) 河川改修における自然環境・景観機能の確保(鹿蒜川)



【評価】

- ・ 魚類：改修前の魚種がほぼ確認され、新たにヤマメも確認されたことから、生息状況は概ね回復したと考える。魚道の上流・下流で同様の魚種が確認できたことから、多くの魚がこの魚道を利用して遡上降下していると考えられ、改修した魚道は一定の機能を発揮していると考ええる。
- ・ 水質：底生生物による判定では、改修前の水準を維持しており、水質環境は概ね回復したと考える。
- ・ 植生：改修前は生息していたと言われているミクリは確認できなかったが、河岸や水際で、改修前の植生が回復し全般的に植物群落に覆われている点、捷水路区間では、河畔林が形成されつつあるとともに、県域準絶滅危惧種であるヤシャダケも確認された点を鑑みると、改修した河道は一定の自然環境・景観機能を確保できていると考ええる。
- ・ 改修前には見られなかったセイウツグサ科により在来種の生息範囲が侵されている点、水衝部で覆土が流失し水際植生が回復していない点をふまえ、地域住民と協働で河川の維持管理を進めていく。

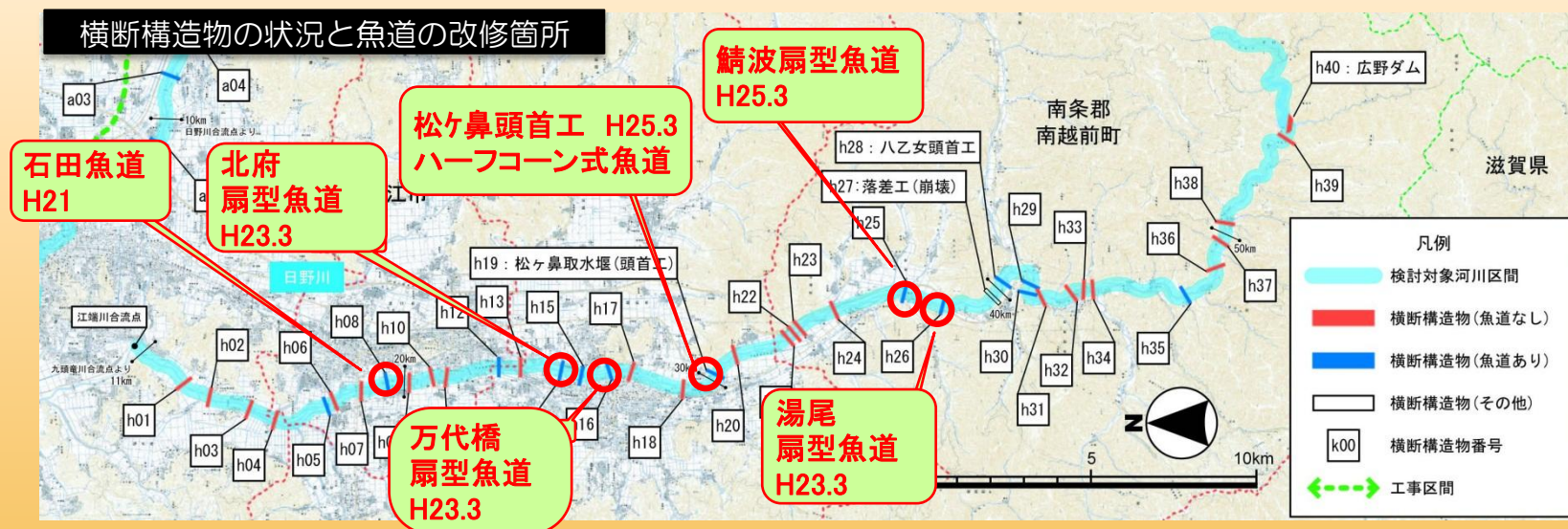
1.2 多自然川づくりの取組み状況

個票No 20

(2) 魚道の設置・改築(日野川)

☆日野川の取組み

- ・市民団体「日野川流域交流会」と連携して、シンボリックな魚であるサクラマスの上流に支障が大きいと考えられた6箇所について、H21～H24にかけて「魚道の改修」や「補助的な魚道の設置」を実施した。
- ・モニタリングの結果、サクラマスの遡上検体数が徐々に増加しているとともに、61年ぶりにサケの上流も確認した。



※ 広野ダムまでの横断構造物の総数 39箇所

- ・魚道なし → 26箇所 (その内、魚が遡上するのに支障が大きいのは9箇所)
- ・魚道あり → 13箇所 (その内、魚が遡上するのに支障が大きいのは7箇所)

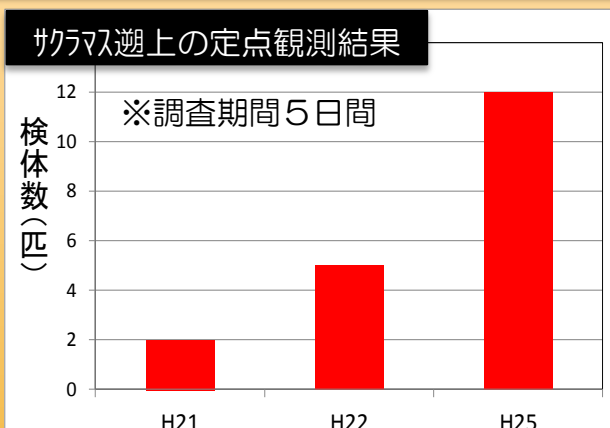
1.2 多自然川づくりの取組み状況

(2) 魚道の設置・改築(日野川)

- 石田魚道の改修(鯖江市 H18~H21)
 - ・既設の床固工にある階段式魚道に剥離流による遡上障害があったため、階段部の面取りを施した。
 - ・迷走した魚の遡上を助けるため、補助的に扇型魚道を設置した。



- 松ヶ鼻頭首工の魚道改修(越前市 H21~H25)
 - ・既設の階段式魚道が老朽化による機能低下や多種の魚に十分機能していなかったため、水深や流速に変化を持たせたハーフコーン式魚道に改修した。



【評価】

- ・日野川本川では、6箇所の魚道改修によりサクラマシの遡上が大幅に改善され、一定の効果があった。この他にも魚の遡上に支障が大きい箇所が残っており、引き続きモニタリングを実施しながら順応的管理を進める。

1.2 多自然川づくりの取組み状況

(2) 魚道の設置・改築(日野川支川)

☆日野川支川の取り組み

- ・日野川支川である天王川や田倉川でも魚道の設置や改修を実施しており、支川でも少しずつではあるが順応的管理を進めている



- 天王川の魚道設置 (越前市 H25)
 - ・落差工 (H=約1.0m) に、粗石付斜路式の魚道を設置した。



- 田倉川の魚道改修 (南越前町 H21)
 - ・床固め工にある魚道が老朽化し隔壁の破損などにより機能が大きく低下したため、粗石付斜路式の魚道に改修した。



【評価】
・支川でも、少しずつではあるが魚道改修を進めており、魚の生息や遡上の状況、横断構造物の設置状況や魚道の現状機能などの調査・分析を実施し、順応的管理を展開していく必要がある。

1.2 多自然川づくりの取組み状況

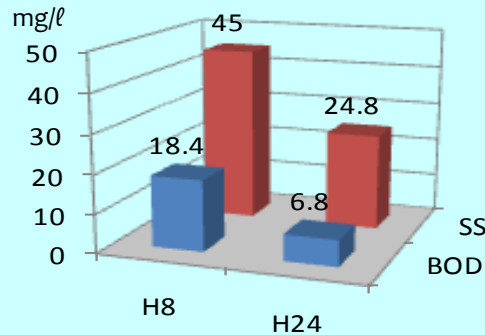
個票No 11

(3) 狐川の環境整備(水辺の楽校プロジェクト)

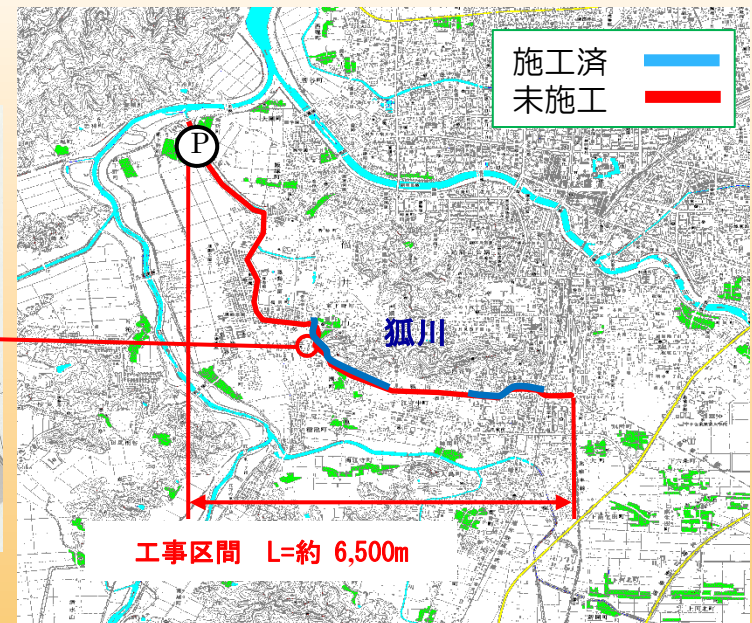
整備進捗率
32%

☆河川工事の内容：みお筋の整備、自然観察拠点、階段、飛石、植栽

水質観測結果



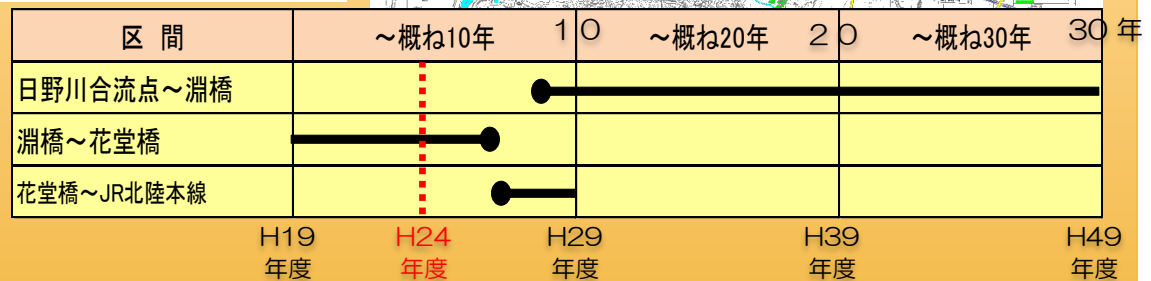
親水空間平面図



工事区間 L=約 6,500m

【評価】

- ・みお筋の整備や水際植生の再生を着実に進めており、工事進捗は順調である。
- ・今後、引き続きモニタリングを実施し、整備効果を検証しながら事業の進捗を図る。

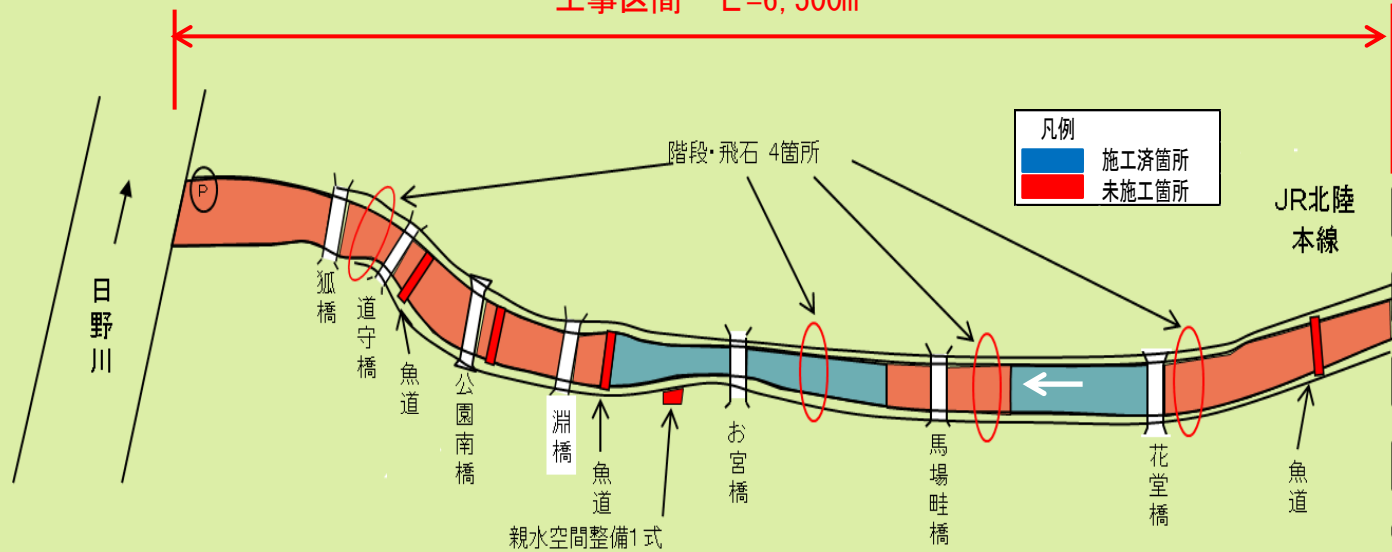


1.2 多自然川づくりの取組み状況

個票No 11

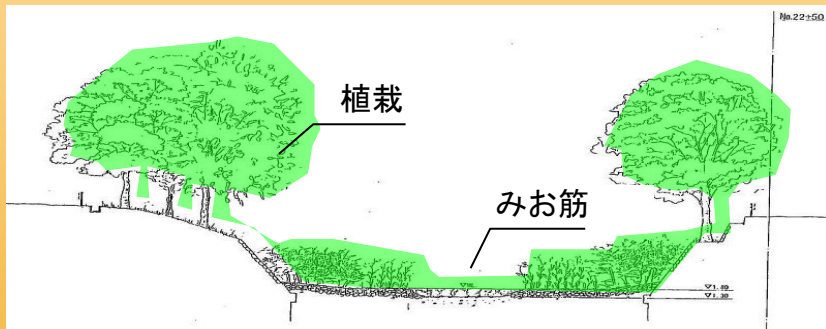
(3) 狐川の環境整備(水辺の楽校プロジェクト)

工事区間 L=6,500m



未整備区間

整備済み区間



1.3 総合治水対策の取組み状況

(1) 流域対策

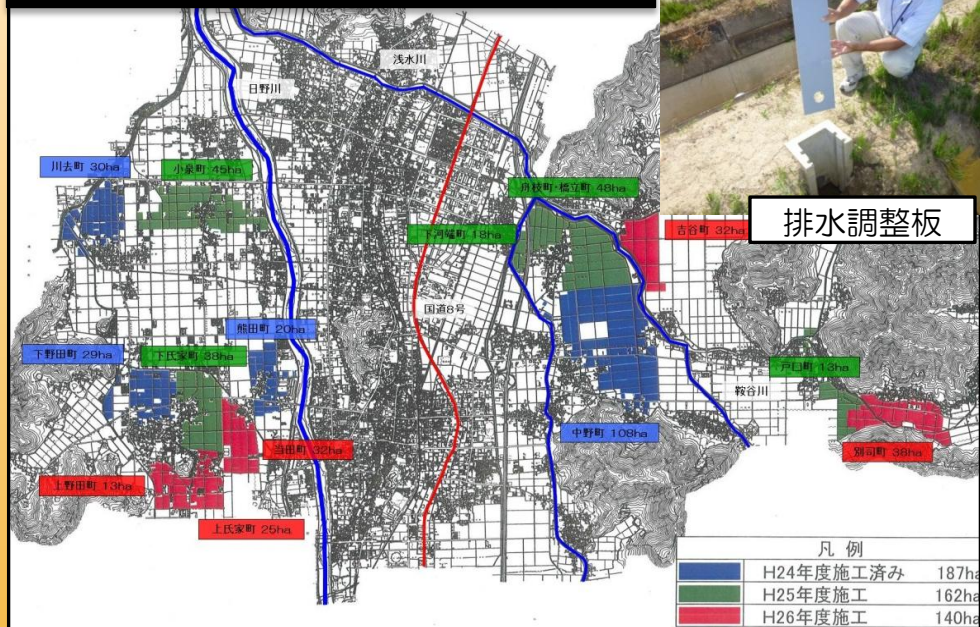
☆流域対策

- 流域対策の一環として、市町と協働で「水田貯留対策の促進」に取り組んでいる。江端川流域ではH20～H21、服部川流域でH22に貯留効果の現地検証実験を実施した。鯖江市では、H24から営農者と協力して水田貯留対策を展開している。
- また、水田貯留対策を広げていくため、H25.2から県、福井市、越前市、鯖江市の関係部局の担当者が集まり、事務レベルの協議を開始した。
- その他、「住宅の雨水貯留施設の設置への補助」など、市町独自の取組みも実施されている。

【評価】

- 水田貯留対策は、水田の割合が高い流域において、「小さな費用で、高い即効性、大きな効果」を得ることができる非常に有効な流域対策の一つであり、鯖江市のみならず、越前市や福井市など他の市町での取組みも促していく必要がある。
- 水田貯留対策の拡大においては、市町と協力して、「排水調整板の管理」や「貯留による冠水の稲への影響」などの課題解決に向けた取組みも重要である。
- 特に河川改修の見込みがたえず頻発する浸水被害がなかなか解消されない地域では、地域特性をふまえ、更に流域対策を推進していく必要がある。

水田貯留対策の実施状況（鯖江市）



1.3 総合治水対策の取組み状況

(2) 被害軽減対策

☆浸水想定区域図

- ・洪水予報河川や水位情報周知河川に指定している6河川は、浸水想定区域図を作成済みである。
- ・その他の36河川については作成しておらず、作成済みの河川延長は全体の約3割である。

☆洪水ハザードマップ

- ・浸水想定区域図を作成した市町では、洪水ハザードマップが作成されており、住民に周知されている。
- ・洪水ハザードマップのベースとなっている浸水想定区域図は、上記36河川については作成していないため、マップに水害リスクが十分に網羅されていない。

☆浸水実績マップ

- ・住民や市町に地域の水害リスクを広く知ってもらうため、全ての一級河川を対象に、過去20年間（H5～H24）の浸水実績エリアをマップに整理した。（H24作成）
- ・今後、作成した浸水実績マップを含め、各種防災情報を統合整理した防災情報提供システムをインターネットで公開する予定である。

☆その他

- ・その他、排水ポンプ車を土木事務所に配備するなど、被害軽減対策に努めている。



河川名	公表年月日	関係市町	備考
日野川	H19.3.30	福井市、鯖江市、越前市、南越前町	洪水予報河川 水位情報周知河川
江端川	H19.3.30	福井市	水位情報周知河川
天王川	H19.3.30	越前町、福井市	水位情報周知河川
浅水川	H19.3.30	越前市、鯖江市、福井市	水位情報周知河川
鞍谷川	H19.3.30	越前市、鯖江市	水位情報周知河川
吉野瀬川	H19.3.30	越前市、鯖江市	水位情報周知河川

浸水想定区域図の作成状況

作成市町	公表年月	対象河川
福井市	H17.10～ H22.4	九頭竜川、日野川、足羽川、 荒川、江端川
鯖江市	H18.4～ H24.4	日野川、浅水川、鞍谷川、 吉野瀬川
越前市	H19.3	日野川、浅水川、鞍谷川、 吉野瀬川
南越前町	H19.8	日野川
越前町	H20.5	日野川、天王川

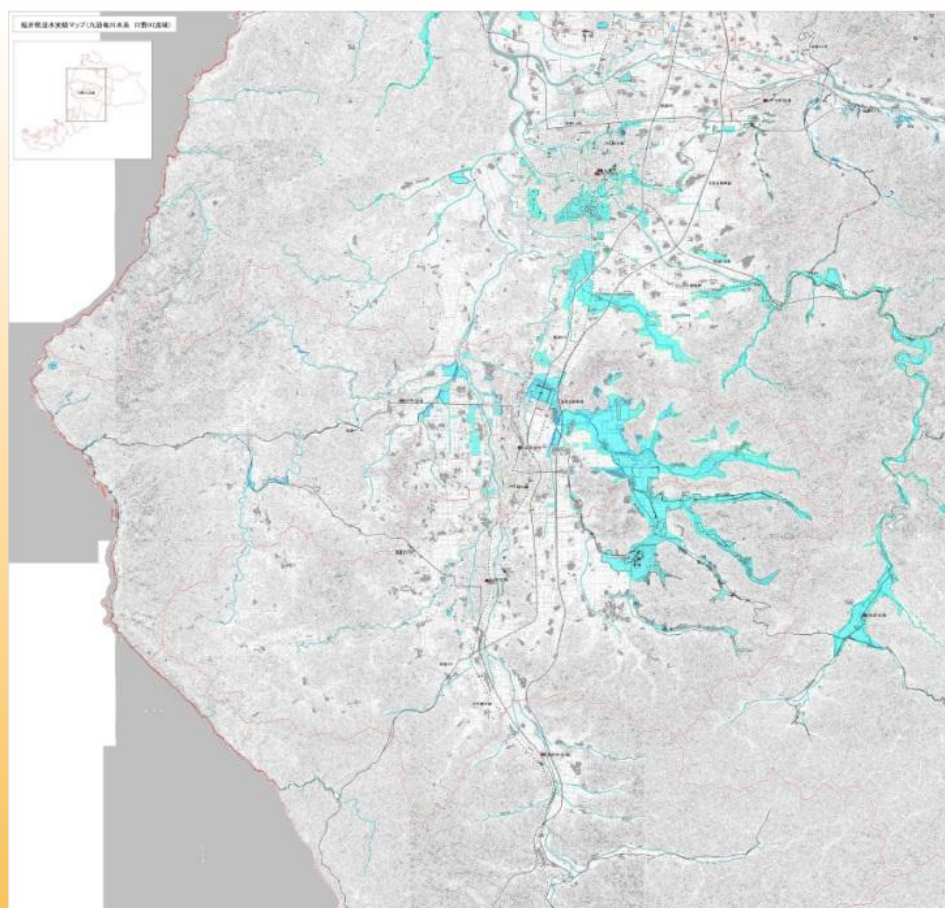
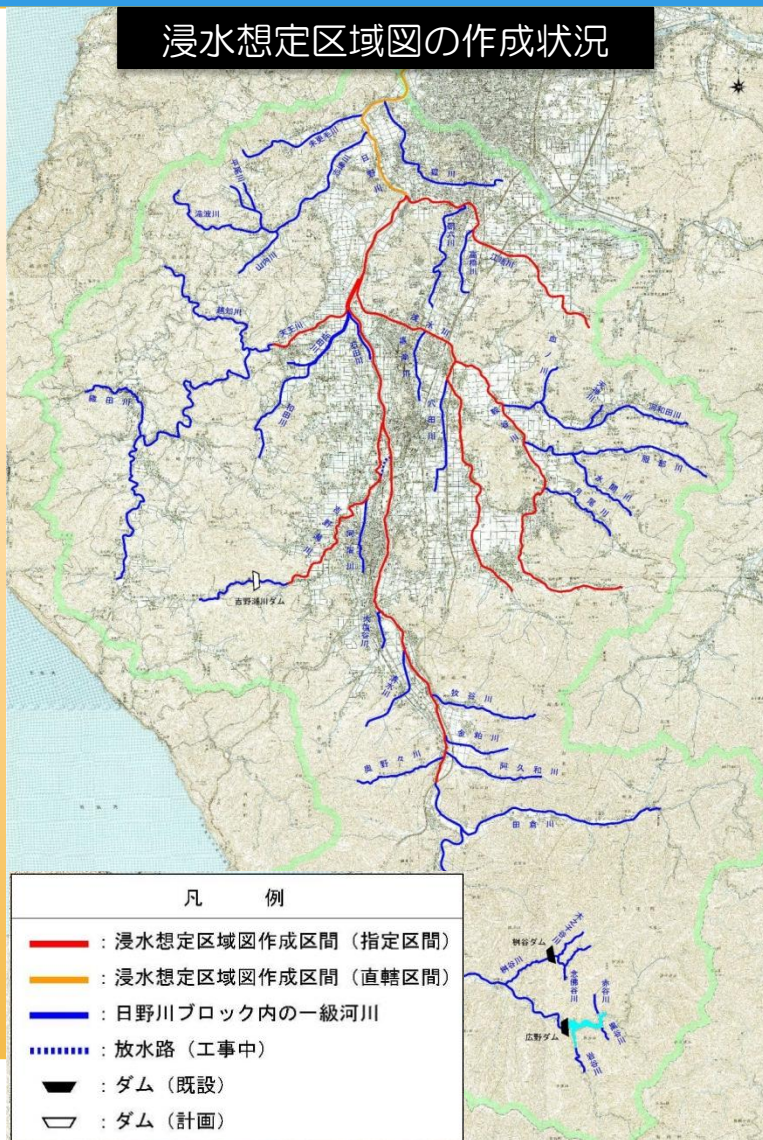
洪水ハザードマップの作成状況

1.3 総合治水対策の取組み状況

個票No 17

(2) 被害軽減対策

浸水想定区域図の作成状況



浸水実績マップ(日野川ブロック)

1.3 総合治水対策の取組み状況

個票No 17

(2) 被害軽減対策

【評価】

- ・洪水による被害ポテンシャルが高い主な築堤河川である「洪水予報河川」、「水位情報周知河川」については、全て浸水想定区域図を作成し公表済みであり、外水氾濫による一定の水害リスクを周知できている。
- ・また、浸水想定区域図を作成していない河川の水害リスクを把握するため、全ての一級河川を対象に「浸水実績マップ」を作成しており、限られた河川でしか浸水想定区域図を作成していなかった状況をカバーできている。
- ・今後、浸水実績マップも組み込んだ「防災情報提供システム」を、住民が閲覧できるようできるだけ早くインターネットで公開するとともに、浸水実績マップを洪水ハザードマップに活用し更に警戒避難体制を充実させていく必要がある。
- ・平成25年3月に「洪水ハザードマップ作成の手引き」が改定され、想定される浸水のエリアや深さに加え、洪水時家屋倒壊危険ゾーンなど、より質の高い情報をふまえた「実践的ハザードマップ」の作成が求められている。市町ができるだけ早く洪水ハザードマップを見直していけるよう、浸水想定区域図の見直しに取り組んでいく必要がある。

2. 治水計画の確認

2.1 治水計画の計画諸元の確認

点検の方法

- 河川整備計画では「計画的に河川工事を実施していく河川」として以下の9河川を選定している。
日野川、江端川、浅水川、鞍谷川、河和田川、服部川、天王川、吉野瀬川、鹿蒜川
- 本県では、「想定氾濫区域内の人口や資産の集中状況」、「流域や想定氾濫区域の規模」、「河川形態」に応じて、各河川の将来計画の計画規模を設定し、県内の整備水準のバランスを図っている。
- 今回の点検では、河川整備計画策定後の「人口や資産の集中状況の変化」を調査し、計画規模の再検討の必要性について確認した。

2.1 治水計画の計画諸元の確認

(1) 将来計画の計画規模

点検結果

河川名	人口(人)		世帯数(戸)		事業所数(箇所)		従業員数(人)		資産額(億円)		資産密度(億円/ha)	
	今回 (H22)	前回 (H7)	今回 (H22)	前回 (H7)	今回 (H22)	前回 (H7)	今回 (H22)	前回 (H7)	今回 (H22)	前回 (H7)	今回 (H22)	前回 (H7)
	今回/前回		今回/前回		今回/前回		今回/前回		今回/前回		今回/前回	
日野川	82,060	79,467	27,240	23,249	4,539	5,444	43,981	47,371	18,671.8	16,346.0	3.039	2.670
	1.033		1.172		0.834		0.928		1.142		1.138	
江端川	12,980	13,200	4,469	4,168	494	547	4,947	5,426	2,187.3	2,190.1	3.232	3.033
	0.983		1.072		0.903		0.912		0.999		1.066	
浅水川	7,605	6,732	2,582	1,881	458	433	7,807	7,078	2,052.4	1,632.8	2.252	1.730
	1.130		1.373		1.058		1.103		1.257		1.302	
鞍谷川	4,215	4,518	1,196	1,140	248	370	1,368	1,975	807.9	962.5	1.204	1.381
	0.933		1.049		0.670		0.693		0.839		0.872	
河和田川	1,811	2,537	508	616	164	240	916	1,206	368.3	587.2	1.131	1.840
	0.714		0.825		0.683		0.760		0.627		0.614	
服部川	1,827	1,650	510	399	91	101	389	541	300.7	324.2	0.796	0.830
	1.107		1.278		0.901		0.719		0.927		0.959	
天王川	4,481	4,597	1,315	1,179	232	245	2,359	3,041	1,053.9	972.1	1.471	1.265
	0.975		1.115		0.947		0.776		1.084		1.163	
吉野瀬川	20,648	17,248	6,533	4,814	940	1,104	11,762	11,052	4,622.2	3,481.3	2.908	2.199
	1.197		1.357		0.851		1.064		1.328		1.322	
鹿蒜川	630	625	212	183	38	57	301	471	168.2	127.5	1.718	1.221
	1.008		1.158		0.667		0.639		1.320		1.407	

2.1 治水計画の計画諸元の確認

(1) 将来計画の計画規模

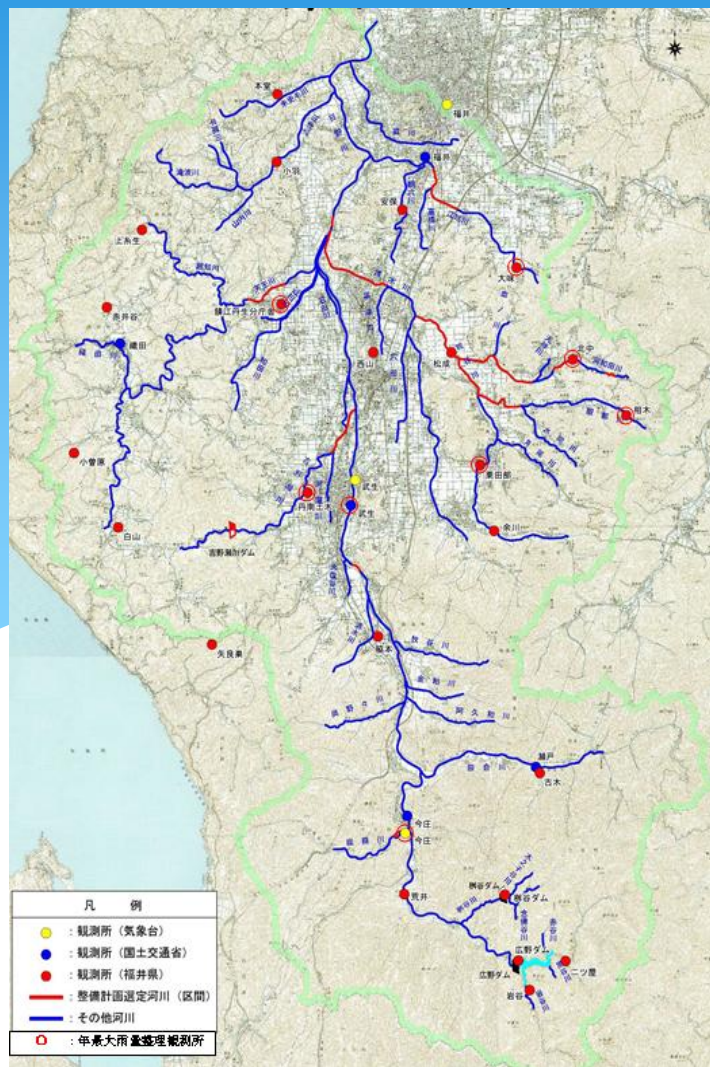
- 人口や資産関連のデータの変化をみると、浅水川を除き、減少している指標と増加している指標が相半ばしている。
- また、浅水川は全ての指標で増加しているが、その程度は1割前後のものが多い。
- これらのことから、各河川の想定氾濫区域内の社会情勢に大きな変化はないと考える。



将来計画の計画規模は現行のままとする。

2.1 治水計画の計画諸元の確認

(2) 計画降雨量



①実績降雨量との比較

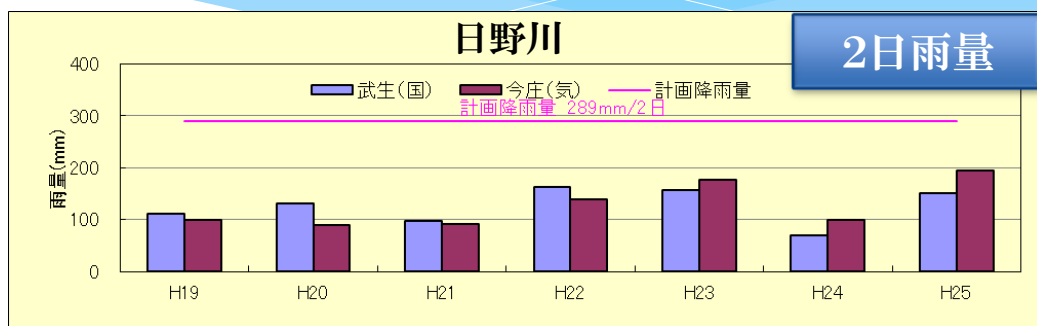
整備計画策定以降 (H19~H24) の年最大降雨量を確認

■ 検証観測所: 河川毎に代表観測所を1ヶ所選定
日野川は2ヶ所選定

■ 検証雨量 : 計画降雨と同じ継続時間内雨量

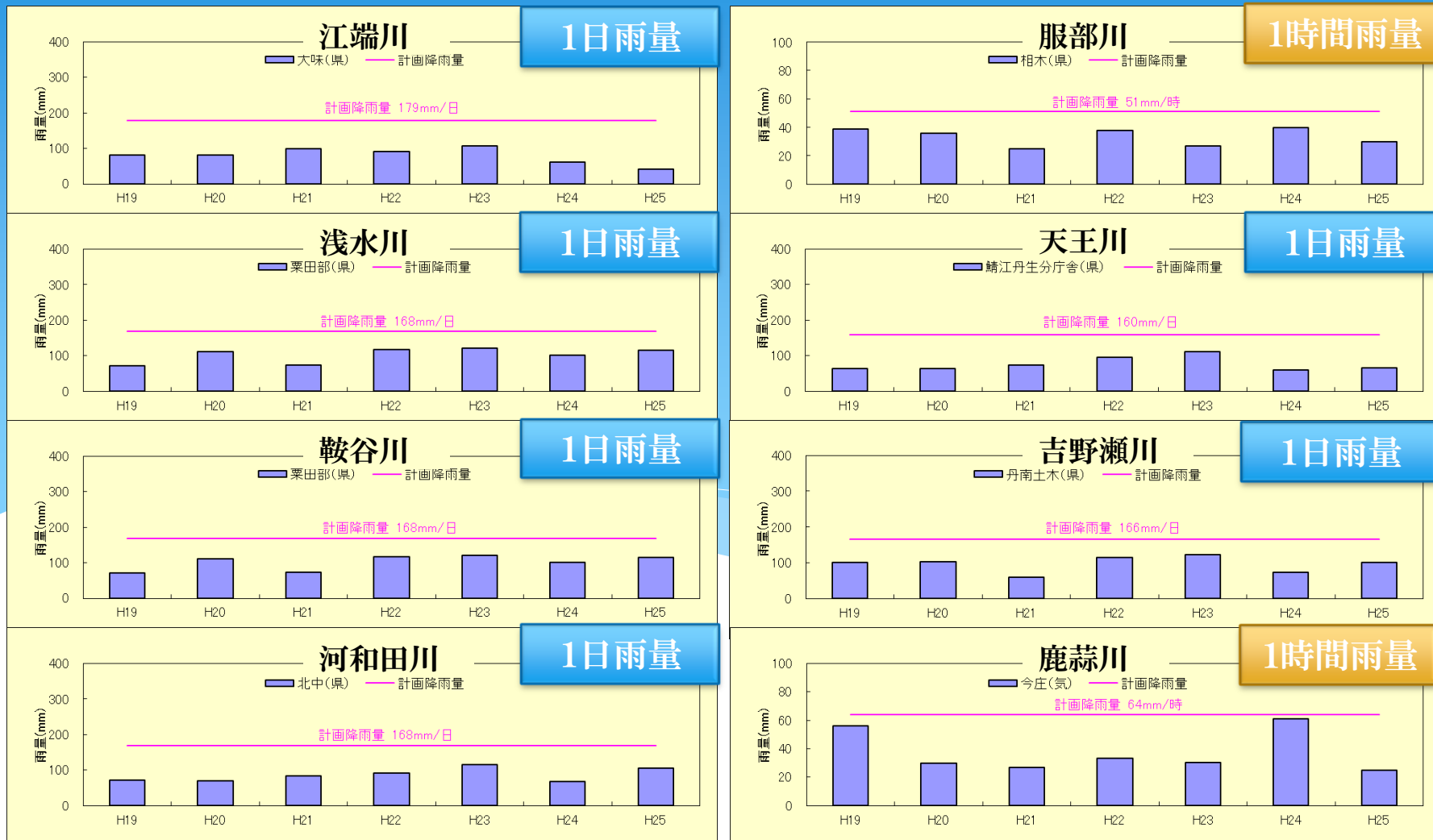


計画降雨量を上回る降雨は発生していない



2.1 治水計画の計画諸元の確認

(2) 計画降雨量



2.1 治水計画の計画諸元の確認

(2) 計画降雨量

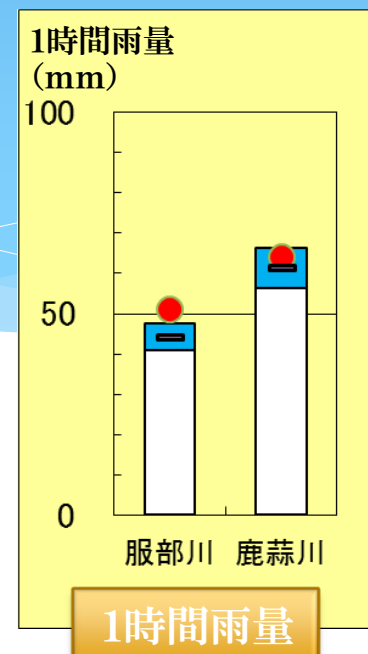
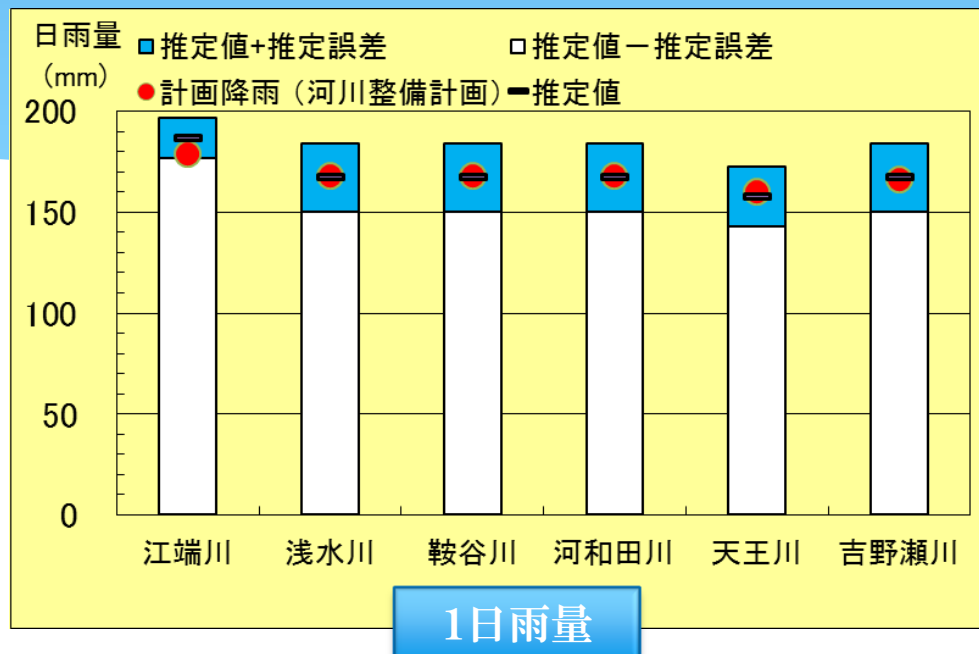
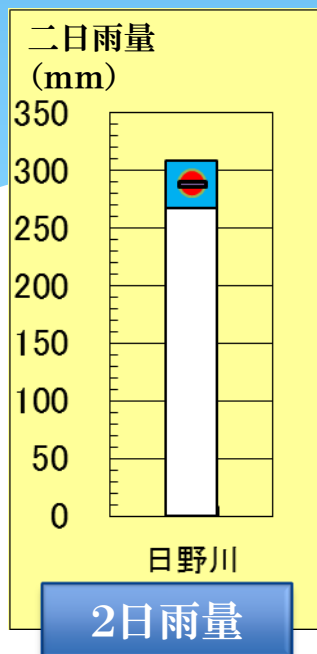
②最新の確率降雨量との比較

■H1～H23年の雨量データを追加して12種類の手法で確率降雨量を算定



■計画降雨量は最適手法の確率推定値と同等

※確率推定値としてジャックナイフ推定値を採用



2.1 治水計画の計画諸元の確認

(2) 計画降雨量

①～②の確認の結果、

- ① H19～H24の実績降雨量は計画降雨量を上回っていない。
- ② 計画降雨量は、H1～H23の観測雨量を追加した確率推定値と同等である。



計画降雨量は現行のままとする。

2.2 新たな河川工事の位置付けの検討

- 日野川ブロックの県管理河川は42河川あるが、その内、日野川、浅水川および吉野瀬川などの9河川は、既に「計画的に河川工事を実施していく河川」として、河川整備計画に位置付けている。
- その内、7河川については工事実施中、2河川(日野川、服部川)については未着手の状況である。
- これらの河川以外については、整備計画策定後も、
 - ① 想定氾濫区域内の家屋の分布状況に大きな変化はない。
 - ② 家屋浸水履歴に変化がない。
 - ③ 合流河川の河川改修が未完了である。という状況であるため、今回は新たな河川工事を河川整備計画に位置付けず、当面は河川整備計画に位置付けた9河川の工事進捗を図っていく。